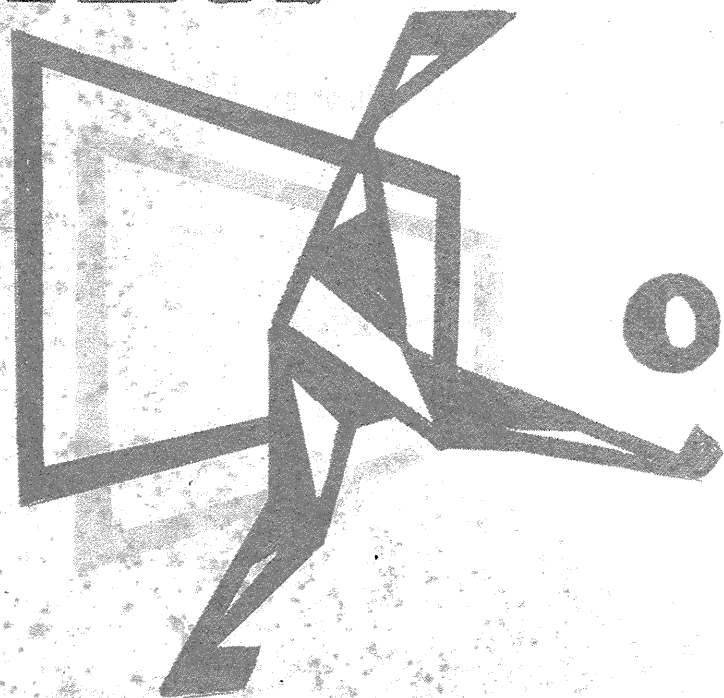


DASH



2



栄光学園蹴球部

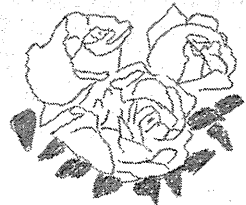
10期 ~
183 ~

15期
C1

目次・もくじ・モクジ・ *mokuji*

今年に望む	1
今年の抱負	3
全国大会県予選	6
サヨナラサッカー部	8
10期・中前 峻・太田 茂・林 茂 雷野暉一郎・新井流二	
特集・日本一紹介・修道高校	24
随筆・論評	26
13期・渡辺幸男・渡辺浩・相川亮一 太田忠彦・青戸邦嗣	
11期・宮坂研一	
中学県大会 --- 13期・青山明夫	42
新入部員	46
11期・宮坂研一	
15期・小寺秀俊・野口明夫・狩野 寛・山口修司	
オリンピック強化合宿	52
12期・伊東一雄・越智信利	
練習試合のスケッチ集	58
13期・戸田忠澄・他	
中三無銭旅行記	62
13期・相川亮一・渡辺浩	
新人戦	65
ハナシの種	68
文学集	71
総合成績	78
この一年の回想	80
役員選挙	82
後記	83

表紙 "キック" 13期・新井正夫



今年に望む

十二期主将 伊 東 一 雄

今年でもって我サツカー部は、創立十周年を迎えることになった。この記念すべき年にあたって主将として今年の抱負を述べてみたいと思う。

学校創立十五周年、サツカー部創立十周年を迎えることになった栄光を考えてみると、今までの栄光は成立期にあたり、サツカー部もまたそうであった。これからはいよいよ発展への時期である。より高ハ発展へと前進するときになったのである。近年栄光は一役落を迎えてほっとして泥滞気味に

なっていると思う。そこでサツカー部から今年は栄光に新風を送り込み、活気のある、若々しさに満ちあふれた学校にしたいと思っている。それには、試合に多く勝ち花々しい活躍をして他の部を促したり、創立記念祭や運動会などの学校の行事に参加して学校に呼びかけてもよいと思う。

試合のことかできてきたので今年の大会についての目標を述べたい。高校の目標は関東大会、全国大会の二つである。一昨年出場し輝しい成績をおさめた関東大会に再

度出場したハ。全国大会は近年大会前に気力の充実が見られず二、三回戦で敗れているのでは非とも予選を勝ち抜き、他の全国優勝校ときそいたハと思う。又、中学は、毎年のことながら夏冬の県大会である。昨年は夏には準優勝、冬に優勝。一昨年は冬に準優勝と見事な成績で県下の上位を占めているのであるから、今年もその名誉に恥じないように活躍し優勝力ツプを部室に飾っておきたいと思う。

輝しい成績をあげるには、それ相当の努力が必要なのである。栄光では、毎週二回の練習量で毎週二倍近い練習量を持つ他校と較べて勝利を得ていくには練習を極力大切にしなければならぬ。大切にするには、部員全員が練習

に参加することである。そしてその練習には、出てくるというところが当り前であり、余程の事がなければ限り不参加は許されないのである。又練習に出てきてもらはないとファイトもなくて何は何にもならない。積極的に自らを鍛錬しよう。自分の力をためそう。今日はサイドを上達させよう。ヘッドなりキックなりトラップなりと達させようという心構えで練習に出てもらいたいのである。そうすれば自然まとまった練習ができるのである。最小の種から最大の収穫を得るようにするのである。

試合に対しては、皆の協力が必要なのである。試合に出るのは十一人だけではなく全員が出るのである。それはグラウンド上には

表われないが、非常に大切なことなのである。というのは、いくら十一人が頑張ってみたところでなかなかよい成績をあげられるものではないのだ。全員が試合への闘志を燃やして他の者を引張ってゆくのだ。具体的に言えば、イレブンが試合にベストコンディションになるように、ベストを尽すことができるように、残った着が他の種々な事を引受けてイレブンが試合のことしか考えなくてむよいようにすることなのである。サッカーのような団体競技にあっては、そのチームを構成する一員はあくまでもチーム全体の利益によって行動すべきであり、各人個々の失敗は向うところではないのである。すなわち、各人一人一人が、自分がいなくてはサッカー

部が成り立っていかないと考えることが必要なのである。

部生活は試合、練習を除いた生活に大きな魅力がある。多くの者はその点で入部し、部生活を楽しんでいると思う。そこで部員内の横糸はもちろん従来まで関係を密接にしてゆきたいと思う。

即ち、各学年間の友情も必要であらうが、その学年を越え、年令を越えた強い結びつきをますます深めてゆきたいのである。サブアミリー、オブ、サッカーとして発展させてゆきたいと思う。そのためによい方法としてディスプレイションを南くというのがある。自分の部、先輩、友達に不満があったら、それをあらわにしない全部述べて、それを皆で解決してゆくのである。これは特に高校生の

頃を行なわれでよいと思う。だから今年は少しでも言いたいことがあったら、すぐ主将か副主将にその旨を言ってもらいたい。—そこですぐデイスカッションを南いて、問題を解決し、ますます親朴味を増していきたい。少くとも一月に一回はデイスカッションをやつてゆきたいと思つてゐる。

何事においても積極的に働くことは結構であるが、その積極さを内において大はに發揮してもらいたい。例えばサッカー部においては、ダツシユの原稿を頼まれぬうちに自主的に書いたり、部室の掃除をよくやるとかいうことなのである。部員全員に徐々当番を越えた自主性を望むものである。いろいろと話は脱線してしまつた

か、何事をするときにもサッカーの練習や試合のフアイトを思ひ出すような部生活を望みたい。理想に走らず、現実を見つめて着実にこの一年を過ごしたハものである。

今年の

抱負

十二期 副主将

佐藤 孜

今年一年、これから我サッカー部の取るべき道、進むべき道。それは何であらうか。その目標は何

であらうか。高校としては、関東大会。中学としては夏、冬の大会などがそれであらう。しかし、僕はそれとは又違った方向における夢やら理想やらを抱いてゐる。それは部の対外成績。とにかく勝つたとか負けたとかいうような派手なものではない。つまりサッカー部内部における今年の目標である。

その① 栄光生としてのサッカー部員 我々はサッカー部員であるが、それとともに又栄光生でもある。そうである以上学校をはなれて部だけで勝手に行動することとは許されない。スポーツを通じて得られた友情は素晴らしいものである。これがスポーツの目的でもあるのだから。こうして部員同

志はがつちりと太い丈夫な余で結ばれてゆく。而結することそれ自体は良いことである。問題はそれが度を越して部員だけでましまつてしまふという点にある。部員以外の者とは何も話さないなんていう人は勿論ないが、部のことを先ずオー一に考えてしまふ。これは往々にしてあることである。クラスで何かやるときは、今日は部の仕事があるから出られない、とか何か学校で重大なことをやろうとしたときに、練習があるから参加できない、などということになつてしまふ。学校と部の比重、それは同じなのである。それよりも一人一人がクラスの中でもつとむつと積極的の活動していつたらどうだろう。それれがどんなに小さなことであろうとかまわぬ。最近

沈滞気味あるハはだれ気味であるハと僕は考える。栄光を改善するために、全員がこのことを頭に置いておこう。例をあげれば中間体操はいつも一番に飛び出してハくくらの意欲を持つとか、学校へのいきかえりにはきちんとして礼をするとか、ホームルームでは活発に意見を出すとか、運動場にごみをちらさないとか等々である。それらのことは決してむずかしいことでもひんでもないことである。やる気さえあればできることである。とにかく特別視されることの多いサッカー部であるが、部員一人一人が立派な栄光生でもあるように、そしてそうあつてこそ其のサッカー部員でもある、と考えた。その② 部室のこと。サッカー部の部室、それは高校校舎の玄関

を入つて左にまかつて右側の三つ目にある日こり一つおちていない明かるい清潔なきちんと整理された素晴らしい部屋だ、と言う人はまずいなむと思つて差しつかえない。現に朝礼などで部室がきたなハと言われればまわりの目が自然にサッカー部員の方へ向いてくる。それは何故だろうか。部室はそれほどよごれてゐるのだろうか。試めしに他のあの辺にある部室をのぞいてみる。それほど床の上にある土の量に變化がないのがわかるだろう。サッカー部では一週間に三回も毎週そうじをしてゐる。他の部でこんなにそうじをする部はないだろう。それだからこそ、土の量もあれだけに食ハ止められてゐるのである。こつきも述べたようにこの土に部室のきたなさはそ

れほど関係ない。それでは何が原因のだろう。よく考えてみる。あの部室をよくなめてみる。そこにはいろいろな靴がごろごろと転

かっているだろう。うすぎたカヒ黒っぽいハトレパンがぽつぽり出しているだろう。汗にまみれた各種色とりどりのシャツがさがすほど出てくるだろう。少しオーバーではあるがこれが部室の実情である。この責任はどこにあるのだろうか。言うまでもなくそれは一人一人にある。各自がもっと注意すればよいのである。何のためにボツタスがあるのか。そこに荷物を入れるためだ。それだったなら不精しないで自分のものはきちんと整理してボツタスに入れておこうじやないか。あの部室に転かっているがらくたが取り去られたら、ど

んなにさつかりすることだろう。塚田先生がサッカー部室かどこにあるのか捜しまわられるかも知れない。

その③ 勉強のこと。スポーツをやる者は往々にして頭の方がそれにともなわなはいというのは悲しむべきことである。その傾向は現在部のにおいては、はなはだしい感がある。昔のサッカー部ではそういうことはなかったという話だ。誰も好きこのんで成績を下げている人はいないだろうが、サッカーをやっている以上少々成績が下がるのはやむを得ない、と考えるような空気が一つのまにか生まれてきてしまったのだ。サッカーがいくら強くとも頭の方がお留守では何にもならないと思うのである。今年こそこういつたよろしくない

ジンクスはなくしたいものである。

その④ 積極的であること。

僕は好き好んでこのサッカー部に入ってきたのである。入った以上は最後まで徹底的に部の改善のために努力するべきである。自分ではやる気がなくなってしまうただ機械的な部員だったなら、それほどつまらないものはない。部の楽しさ、それは自分の好きなことを自分からやっていく所にあるのだと思う。部内に限らなくとも学校においても家庭においても、自分から楽しみをみつけていく、こういう習慣をつけたら。特に今年が栄光創立50周年、サッカー部誕生10周年にあたる年でもあるので部員一同大いに頑張ってもらいたい。

全国大会

県予選

INTER-HIGH



全国大会中 | 回戦シード
全国大会中 2回戦 対川崎高

栄光 5 { 1-1
4-0 } | 川崎

「前半」

右から再三再四ロビングがあるいはゴロでボールが真中に入るが得点に結びつかない。前半10分栄光の攻撃がゆるんでくると、川崎は長い縦パスからチャヤンスをつかみゴールを叩ろうがスピード不足で得点にならず攻めたり守つたりの回つ角力となる。両チーム共中盤のボール争いが少なく、戦況は一蹴ごとく大きく変わる。

20分右からパスが二、三回つながらCF田島が右へ出て中へかえすのをRT市村ワントラップゴロのシュートをはなてばボールはキーパーとバックの胸をぬけて左隅にころかりこんでノーリード。

相手バックスはシュートに備えてかならずゴールへ入るので栄光のシュートことごとくきまらず。

25分川崎は中盤からロングキックで真中をやりCH小島出たが及ばずCFの大きなドリブリ、イレギュラーしてGK佐藤つかみえず、ゴールインー対ノとなり前半終了。

「後半」

前半の苦戦でみなひきしまり後半に入る。落着いてパスをまわせば買ける相手ではない。キックオフ直後ゴールをおびやかされたが、その後立ち直り、シーソーゲーム

のうちにCF田島が混戦からシュートを決めて2-1。その後味方ゴールキックをうけたRT市村RWを大きな縦パスを出し、敵バックもと

りえず、佐藤そのままクリーンシュートを左隅に決める。3対1、栄光よくせめるがシュートはことごとくキーパーの正面をつき得点できず。しかしその後LW越智、タ

イムアップ寸前に葉山と得点なり
てゲームセットになる。

○ 同三目戦 対 梶 録

× 栄 光		
3	0	1
	0	3
	0	0
	3	梶 録

始まつて五分ごろからボール栄
光に渡り二、三度々ヤンスが訪ず
れるがものにならず。しかし30分
すぎて32分ごろ LW 越智のパス CF 田
島から R 市村にわたり市村左すみ
にきめてようやく先取点。つづけ
て34分 R 市村と敵のうばい合った
ボールがこぼれ、それを RW 佐藤よ
くねらつてクリンシュート。こ
れで二点目をあげ前半を終了する。
なお途中 R 北村は足をいたため退
場、以後10人でやることになった。
「後半」

14分 CF 田島ドリブルで相手を抜き
得点。3点目をあげる。これより
5分ほどして、栄光気がゆるんだ
か競々と足をつらすものが現われ
実際に動いてゐるのはいつも8、
9人である。梶録このスキをぬ
らつて猛烈に反撃してくる。もし
て22分からのペナルティーをふくめ
て立てつづけに3点入れられ、た
ちまち同点にされる。この間 R 市
村足をつらして5分程退場してハ
る。調子ついた相手に対して味方
は苦戦。一進一退のまま延長に入
る。延長に入るともうあたり
はまつくら、球も良く見えない。
応援団は必死。何を言つてゐるの
かわからない。選手ももちろん必
死、最後のダッシュをしてゐる。
延長後半 R 市村のシュートなりみ
な歓喜したがオフ、サイとみとめ

られフイになる。そのまゝ終了。
ワジで敗けた。みな口惜し涙にま
みれていた。でも高三にはげま
い、暗くなった梶録グラウンドを後
にした。

○ 二回戦

(改)

(晃)

藤川 田 東 島 村 藤 村 島 山 智
佐 吉 大 伊 小 北 佐 市 田 葉 越
GK FB HB FW

○ 三回戦

伊 東 が 清 水 に か け つ た の み。





さよならサッカー部

十期生卒業論文特集

追憶

中前 峻

十一期生吉川君に卒業に際して
原稿を書くよう依頼されたときの
俺の気持は不思議なものだった。

今日此頃は大学受験のこと、そ
れこそ頭がいっぱいで、栄光を去
ること、サッカー部に別れを告げ
ること等を考へて見る余裕は俺の
心の中はほとんど残ってはいなかつ

たのだ。吉川君に頼まれたとき、
一瞬ハッとした俺は新たな感慨を
心の中に呼び起した。いよいよ来
るべき時が来たという覚悟と、サ
ッカー部を離れねばならぬ淋し
が一度に俺の心を二分した。――
今、くつがへし雖も時の流れに葉
せられてこのサッカー部を去りつ
つある俺達十期生の一員として、
ダツシユを回想しつゝ、もう一度
サッカー部の生活を顧みてみた
ハ。

ッダツシユ5号

俺が入部したのは中三も終りに
近い、そう丁度中学の冬期大会
が終つた頃だった。同僚は皆県選
手権獲得に酔ひしめていた。5号
のダツシユには入部したばかりの
俺には知らないことが沢山書かれ
ていた。九期内山先輩の処女作は
ボールを中心にイレブンがエール
をかけている表紙に飾られていた。
松田の書いた「中三万オレ」が載つ
ていた。あの頃の中三、即ち俺達

は、今の中三に決して勝るとも劣らぬ何かをもつていた。フアイトもあつた。今の中三よりはどちらかというと素朴な感じだった。

「ダツシユム号」

傍頭に寫さんの「新しい使命」があつた。創立記念祭の展示を、おほめ頂いたが、俺もあの展示には少からず協力作製したので、興が高かつた。俺の興の大きいはその以前からだか。俺達は高ーになつていた。

しばらくして関東大会の準決勝と三位決定戦両方に破れるという事件が発生した。その時、そうそう、九期の面々、内山、菅沢、大泉、田代、飯田、林壽諸氏、ああ大変な人を忘れた、田畑さんまでが再起を誓つて頭をきれいにするめた。この爆発的行為には、学校

内でいろいろな、批判が巻き起つたが、俺は当時子供心に実に感心した。先輩諸氏のサツカーに対する熱愛と、美しい若人の一すじな心にある。要するに関東大会には出場できなかった。

俺にとって、いや十期にとつて初めての台宿は、その夏行はれた。練習についての印象はあまり俺の心に残つていないが、夜の演芸ゲームが実に楽しかったことを覚えてゐる。先輩はハハ人だなあ、と思つた。栗原さん、青山さん、岩田さん、中村さん、ボケさん、永島さん、後輩を我子のように可愛かつて、歌とおぼしきを聞かせてくれた。十期が偉大な芸人を豊富にとりそろへた学年であること、ギャングという遊びを俺がはじめてしつて、その狂暴さに驚き、

すぐむつと狂暴にあはれまわつたのもこの台宿だった。おかげで俺は耳が一日、ぶつか聞こえなかった。誰かのパンチを受けて……団体予選は何となく出場し、なんとなく敗けた、あまり覚えていない。

この頃俺はすでに次期のダツシユの編集を引き受けようと決心し、みそかにその構想をぬり出した。

「ダツシユク号」

ハハハ俺の作つたダツシユだ。インターハイの予選、決勝で鎌学にらーりと一蹴されたとき、俺はあまり悲しくなかった。それより準決勝で小田原に辛勝、といつても全力をふりしほつて勝つたときの方がうれしかった。守ちんが同卓に栄光を持ちこんだとき、

涙をこぼしたのもこの時だった。
俺は勿論ベンチにいた。

そうであつた、その少し前九月の二十日前後、防大と試合をしたことがあつた。その時俺と木下は初出場ながら仲よく一塁を入れたことを特筆すべきだろう。少なからずうれしかつた。いや、すごくうれしかつた。俺のシュートした球が見事にゴールに入つたとき、何だかうれしくてかけだしたくなつた。だから試合の終るまで懸命に走つた。川喜田先輩は防大のカレーをおごつてもらい、プールで泳いだ。実に痛快だった。林が傘を防大に置き忘れた日だった。

翌年の一月頃だったか、俺の家の近くの緑ヶ丘高校と試合をした。その帰り十期ほとんどが俺の家へ押しかけて、家のおひつを空、

ハヤ米全部をからにし、マンジュウを一人二十個、お茶を一人ニリットル位ずつのんでゐた。俺の家は以来、皆の重さで梁かしなひっはひである。

ッダツシユ8号

全く俺達ダツシユ編集員三人は空前絶後とでも形容すべき立派なダツシユを作り上げた。当時俺達はブラント氏というブラジル人のコーナを持つてゐた。九号はその人につけては載せてある。関東大会予選で市村が決勝点を入れたとき、俺は彼と唯もう何もいわずにひしと抱き合つた。あのときはうれしかつた。その時の感激をいつまでも忘れぬため、八号には市村の決勝の写真を載せた。水戸では思うような戦果があげられた。その喜びが十一月の全国大会での悲

しみにつながろうとは、ハフたハダれが夢にすら見なであらうか。とに角俺達は快進撃をした。そして自信たつかりだつた。俺達の高二の夏の事だつた。丹沢では沢登りを楽しんだ。一人一人が自覚をもつて一歩／＼進んでゐるつもりであつた。

ッダツシユ9号

全国大会敗退の記事が載せてなかつたのは少々歯のゆけた感じだつた。俺は二度目の戦いで鎌学にまたもやられたとき……。そのくやしきは、他にたとへるものを見出せないう程であつた。十期の諸君は勿論俺も、栗宮グラウンドの土にくずおれて泣いた。後から後

からこみあげてくる涙をどうしようもなく、ただ泣いた。東郷先生はハッしようけんめいなぐさめて下さったが、俺達は唯泣いていた。次の試合というものが無い俺達にはくやしがり、かつかりする以外なにもできなかった。しかし人生の上で一つの重要な経験を果たしたことは確かである。

翌年の正月ブランド氏が帰国された。出航の時間が悪かったため港を見送ることはできなかった。何か大切なものを失った気がした。別れるのは皆つらいから、歌う蜩の光がいつにもましてひどく狂って来た。

こうして俺達は高三になった。しかしこれではありきたりの回想に終ってしまう。汗と血と涙を流してがんばり続けたサツカー、敵

夜してまで作ったダツシエに對しあまり申し訳けない。そこでこれからまだ俺の頭に浮んでくる数々を綴ることにする。

一つ、俺はサツカー部にいた間、ずっと人を笑はすことに専念した。きつかけを見つけては、ところい冗談をとばした。皆が笑ってくるとそれぞ満足であった。ときに俺の冗談は泥んだ旨を活気づけるに役立ち、また時には同僚、下級生、先輩が俺をばかにするのに役立った。しかし俺は今だからいおう。俺は決して何となくとぼけて冗談をいつていたのではないというこ

うことを。俺はそこに一つの救いを見出していたのだ。皆よりも技術的に劣るという劣等感から逃がれるために。そしてまた、部を少しでも明るくしようと思ったた

めに俺は冗談をとばしたのだ。そしてまた俺のいつたとぼけた面白ハことが部員の心を少しづつほぐし合い、新たにしつかり結びつけたと思つてゐる。はくらかは、俺がもとで部にはどうかう傾がはやり、シユメール語がはやり、ものすごい笑い方がはまった。皆はそれを使ひ樂しみ笑い合つた。和やかになつた。

松田も、俺と共に丁子肴といはれながら、いや俺以上にぶづけちらかし、笑つた。しかし彼も技術的劣等感にさておき、精神的には俺と同じ組にゐたに違ひない。俺は信ずる。しかし我等二人はあまりぶどけたが故に、信用をあまり置かしくなつた。だから、今俺が書いてゐることを一笑に付す人もあるだろう。しかし、俺は

それでも、庵達の冗談の成果を見ただけで満足である。

我サッカー部発展の担い手は、勿論東郷先生である。しかし不幸にして我々は先生に一年間しか交際をなうことができなかった。しかし先生は、哲学者であられる。どのような事態でも、落ちついて、お話しになれる偉大さをもつておられる。今後の部の発展に、ますます御助力下さることを切に望む次第である。

もう一人、ハつもサッカー部と共にあったのは、ホストン運動具店のおじさんである。彼は栄光に対し、実に親切である。客に親切にするのはあたりまえかもしれないが、彼と我々の間は客と店主だけではない親しい関係があった。関東大会予選で栄光が延長戦で

苦しんでいるときには、相前にも商品を出してはながら、栄光のためには、死にもの狂いの応援を下さった。夏の合宿には、スイカの差し入れだの、水戸へ行くと聞かしては資金援助をしにくれたり、全く、あんないい人はあまりおぼろにはいない。何をしてくれるかの得でいいというのではない。ただただのお客にあれば、骨折りをしてくる人の心は尊はと思ふのだ。

最後に俺はこの間、栄光が大船へうつるという通知をきいた。まず俺の頭に浮かんだのは、あの愛すべき部室を手はなすことである。あのうす汚い、くさい部室に俺輩が世人の想像以上の愛着をもっている。町田が一生涯めいめいにし、俺達かそれに対抗すべくよごした部室、この頃は充分整頓

されてゐるが、二年位前は、靴と穴あきストッキングと、アンダーシャツのしいう油で煮しめたようなのと、石灰の粉と、ボールのチューブと、先の折れた十手と、ありとあらゆるきたないものの散在する中でうずまっていた俺達の部室を手はなさなくてはならぬのだ。きつともう五、六年もすれば大船の一角の栄光の一角に、お嬢様がお化粧でもしやうな美しい部室が作られるだろう。しかしサッカー部員は、今の通りであってほしいと思う。俺達十期のように和やかで、しかもゴツツく、どう猛で、がめつくあつて欲しい。卒業後訪れる気がしなくなるから。最後の最後には、俺は才田代のダッシュの編集長として、一つ首に言はねばならぬことがある。「今

度の庵のように編集長にたのま

れてから、原稿をかくようなのは
恥である。口先きだけで、積極性
を云々し、ファイトを物語り、団
結を促すのは男のかすである。か
すになりたくなかったら、まず原
稿をかけ、もし書く気がしなかつ
たの前の編集後期をめぐり、九号
の「コレコソダツシユダ」を讀め。
それでも書きたくなかったら、ど
うして書きたくないかよく反省し、
その結果まだ怠慢心から書くのを
ためらうようだったの庵の所へ来
い。書けるようにしてやるから。
兎に角、ダツシユの原稿を書くこ
とは、サツカー部に於ける最大の
名誉の一つであることを記憶せよ。
そしてその原稿が紙面に載り、皆
に読まれる快感を味ゆえ。

栄光サツカーの永遠に栄えんこ

とを祈る。

卒業にあたり

太田 茂

本当に部にはお世話になった、
あの試合は苦しかった、くやしか
った、〇〇君ありがとうetc、
etcには誰でも感じることであり
今さらここに書く必要もなからう。
ただ模範的部員ではなかつたが、
部生活を通して僕が僕なりに経験
したこと、感じたことから特に「部
員に対する希望」(多分に個人的な
ものであるかもしれない)を取り出
して書いてみたい。

以下気が付くままに書くことに
する。まとまりのないのはかんべ
んされたい。

その①「あくまでも」ぞつくとあ

れしと言うこと。これは何も好ん
で消れたシャツやパンツをつける
と言うではない。「ぞつと人間」、
それは大げさに定義すれば「周囲
がどんなになろうとも我か道を、
いかなる苦難にもめげず、ただ黙
々と力強く歩む人間」である。

このごろの栄光生の中には、特に
「部」に対してあまりにもルーズな考え
態度を持ってゐる者が多いのでは
ないだろうか。時々サツカー部に
入ることが苦しい時があるだろう。
他の部の部員に対して「あいつら
は勝手にサボれてうらやましい」
「雨の日に練習してゐる部なんか
いじやないか」「部室の掃除、ボ
ール入れなんか」……。

確かにこういう文句の対象とな
る他の部員や生徒は良く言えば「ス
マート」であるかもしれない。時に

は魅力的に見えるかもしれない。
ここではつきり言っておきたハの
は、「サッカード」と他の部を比べる
ハ、と言ふことである。さらに言
えは「遠慮はあいつらとは違ふん
だ」という自覚を持てということ
である。

年々栄光生が「スマート」になつてハ
くのは気付かひだらうか。ごく
身近な例で、国鉄の田浦駅と学校
の往復を歩く者がどれ程少なくな
つたかということ。……上級生
にはこの様な無意識のうちに行め
れてゐる様々の変化を感じること
があるだろう。この「スマートさ」
をサッカードの大敵ではないだろう
か。「スマート」を押しつつ、たとえ
周囲が「スマート」だらけになつてもこ
れをけね返す「ごつさ」があつて
ほしいのである。この為には「億

達」は違ふんだ」というプライドを持
つことこそ最上の手段ではないか
と思つてゐる。

その⑤ ⑤に関連して「サボリ」
について「サボリ」が仲間に対し
てどれ程大きなつまづきになるか、
どれ程迷惑をかけるかを考えてほ
しい。この問題において、前に述
べた、他の部員や生徒の誘惑が最
も具体的に表われる所だろう。特
に何も知らない下級生は無意識の
うちに、他の人の影響でサボリぐ
せがついてしまふ恐れがある。下
級生に徹底的に教え込まなければ
ならない事である。

なお、僕が中二(13期)の指導責任
者だった時、この問題についてき
びしく注意したが、それからは休
む者、遅れる者は必ずと言つた
程度、その日の指導者に本人が直

接申し出る様になつた。中にはき
ちんと盾を持つて来る者さえあつ
た。実に素晴らしい事である。

その⑥「お互ハの文句、特に下
級生の文句をいつも聞き入れる態
度を持つ」ということ。年齢的に
言つて中三や高一(特に下積み
の時期である高一)には、何かと面
白くない事が起るものである。こ
ういう時その不満をしまつておく
のは危険である。どんな些細な事
でも文句の言える、打ちあけて話
せる人や場所があつたら、どれ程ス
ムーズに部生活を送れるかも知れ
ない。この前中三(十三期)に文
句を言わせたところ、ずい分ち
の怠慢から起つた不満があつた
ようだ。高校生の怠慢と今まで黙
つていた中三の両方に腹が立つた。
中には文句の言えぬ者もいる。そ

ういう人の爲にこそ上級生が常に「聞いて上げる」という冗責のしに態度を持たなければならぬのである。

その④、中学生へ。(特に中三へ)「つじめ」について。中三は耳にタコが出来る程度かされた言葉だろう。「ケランドの内と外」の事はかりでない。サイドで球がコボれたときの「ダツシユ、ヘツデイング……」。一つ一つの事においてはまる事である。練習中は、どんなに指導者や上級生がたんでいても、言った事が聞えていて指導者は指導者、上級生は上級生である。こう考えなければ統制がとれないからである。文句は練習のあとで何とでも堂々と言うべきなのだ。練習中のきびしき、終つてからのうちとけたなごやかな

気分、そこで上級生も指導者もない。こんな風になつてもらいたいのである。

その⑤、④に肉付けして「指導者の態度」について。これは中三の文句からわかつた事だが、特にサブの指導者(ホイッスルを持たない方)の「ガレ方」がひどいと言う事である。特に高一に對する文句であろう。「やればいんだろう」型、「口先だけ」型……色々ある。今之らとやかましく言う必要はない。心あたりのある者は反省し、中学生にあやまつてほしい。それと同時に中学生が指導者の立場になつた時、決してこんな文句が出ない様に氣をつけたものだ。

その⑥、「勉強」について。これは自分自身全く痛切に感じた所の一つである。

「サッカー部はだめだ」×点も成績のさがつた者がある。……何と癪にさめる言葉だろう。これも⑤と同様今さらどうしろと言う事もない。唯僕個人としては高一へ来光では中学四年生に於る怠慢が後々まで響いたと言える。ついでに言つておくが栄光では「高」という年はある者にとつて危険なものである。前には「高」で「中学四年生」と書いたが本当にそんな氣かしてしまふ。中学の統き……勉強もサッカーも、両方共将来の大事な「下積み」の時期なのだ。それだけにつまづきも多い事は多い。

「あれ程中学の時に強くて期待されていた学年が、今は何だ!、練習には三、四人しか来ない、技術も全然上達してない。頭だけは

長くつたんだろうな。……
こんな事を言われる様には決して
ないよう誓つてほしい。

こういう事は一つには高二や高
三の態度にもよるものだ。特に部
の中心である高二の態度に、高一
だけでなく部全体がどれ程影響を
受けるかはつきり知つておくべ
きだ。去年の前半は高二が主とま
らなかつた為には部全体がどれ程ダ
れたか、どれ程部員に心配をかけ
たかを考えれば良く解るだろう。
高二の一部の重心たる自覚しが全
てを決すると言つても過言ではな
いと思う。

その⑥ 「ベンチ、ウォーマー」
について。「サツカーは試合が全
てしと言つた先輩もいる程だから
誰でも試合には出たいだろう。ハ
ーフタイムに交代させられるのぞ

えくやしい事があるだろう。あた
り前である。特に真面目にやつて
いる者がそうなつた時はショック
だけではすまされないうちに遠くない。

そういう人達へ、ごくあたり前
の何回も言われた言葉だろうが「
自分を犠牲にしてチームの為に盡
す事がどんなに美しい事であるか
」をもう一度考えてもらいたい。
ベンチウォーマーだけではない。
ホール入れ然り、ネットの出し入
れ然りである。あの関東大会の時
のそつ言つた人達、去年の全国大
会に於ける高一を知っている者は良
く解るだろうと思う。僕も心から
感謝をしたい。幸か不幸か僕はあ
世話になる一方だった。しかし大
学で、社会でこういう事は必らず
ある。その時、きつとこの人達を
思つてがんばつてゐるうと決心し

ているのである。

こうやつて書いていると、次か
ら次へと書きたい事が浮かぶとつて
来る。どれもこれも皆言つておき
たい。でもこの様なことは程度こ
そ遠へ、皆がそれ／＼感じる事な
のである。感じたなら、そのままに
しないでほしい。考える。書く。
話す。何んでも良い、部の為に何
か役に立つだろうと思つたらそれ
を無駄にしないでほしい。僕もこ
んな風に思つたから／＼あたりまえ
と思えることも取えて書き留めた
までのことである。君達の努力に
よつて「サツカー部の限りなき前
進」を期待する。

追記

これを書いて行くうちに
自分のこと考えると何度か赤面せ
ずにはいられなかつた。「お前は

終り

どうだったのか」とだけはお互に
はいつこかししょう。又今日ほ
ど自分の考えを忠実に書き出せな
いみじめさを感じたこともない。
いたらぬ所は各自十分に補って読
んでほしい。

僕等の中一時代

林 茂

十期生と言えば一、二年前にはか
け声勢よくグラウンドをかけ回り、
遠く水戸まで遠征し、現在では卒
業とか大学受験とかで多忙の毎日
を送っている十六人の者でござい
ますか、この十六人にも目をぱち
くりさせ、かわいい二本の足でグ
ラウンドをひよこびよこ駆け回った
無邪気な中一の時代がありました。

今こそ十六人もおりますが、この
中でも中一からのやり続けてきたも
のは四人で、僕もその一人です。
そこで昔話ほどではありませんが、
六年前の僕達を御紹介したいと思
います。

「サッカー部」と書き込んだ入
部願を出してから始めてやつてき
た土曜日。それは小雨の降る日で
した。ボールが重く、早速ある仲
向が中二の蹴ったボールを腹に受
けころげ回って苦しみました。大
きな体をした高校生が額に泥がっ
ついているのを気にもせず猛烈なキ
ックをしていました。その夏に東
日本大会で四位になったチームだ
ったので、練習にも気合が入って
いたようでした。最初の日の指導
者が東郷さん（七期）と佐々木さ
ん（六期）。中一は十七、八人い

たでしょう。今こそ中一から新し
いショートパンツやストッキング
を買って、さっそうと入部してき
ますが、僕達の頃は昭和三十年代
に入ったばかりで、日本の経済の
復興が軌道に乗りかけ始めた頃で
すから、サッカー部でも豪華なも
のは少なかった。スポンは小学校
時代の黒や茶の半ズボンでよいと
言われ、ストッキングは一生懸命
練習して中二になったら上級生の
を貸してやると言われ、楽しみに
していました。かんだか、靴にし
ろ上着にしろ汚ない物を着るとい
う事がサッカー部らしいという雰
囲気が最も盛んな頃であつたので
はないかと思えます。僕は何故だ
か今でも解らないか、とにかく小
学校の頃から栄光へ入ったらサッ
カー部に入ろうと思っていました。

栄光のサッカー部がすでに名が売れていた訳でもありませんが、不思議なことです。こんな事で土曜日の練習は実に待ち遠しいものでした。またサッカー部とかサッカーという言葉を聞くと飛びついたものです。高校部員の行動は実に興味深く見え、最初の日のコーナをしてくれた佐々木さんが栄光きつての秀才であるとか、東郷さん（七期）は部長の兄弟だとか親子だとかと話を笑かせ、また時には当時中三の佐伯さん（八期）が登校中の電車の中で加藤さん（八期）のノートを借りて必死に宿題を写しているのを仲間と見て「サッカー部の団結だなあ、などと感心したり驚いたりしました。

試合で始めて見たのが全国大会了の決勝対希望ヶ丘戦で、北風

の冷たく吹きまくる日でした。延長に持ち込まれ、神高の先生が、「体力はこっちのものだから、もうもらつた」といふのを聞いて、何も知らずに知らばれたのも確かです。西岡東大表決定戦の

対甲府商高との試合も更にゆきました。相手は山梨から応援団を引き連れ、バスで来ていました。陣太鼓に大きな旗を掲げ、始めのうちには応援員けしそうでした。当時の栄光の応援はずつとおとなしかったようです。後半はつて栄光が我然リードして、見ていた衆議さん（四期）がフルバックの渡名喜さん（六期）に「おい、大阪に行けるぞ」と言うのと「試合中は言わないで下さいよ」と、勝利を掌中に納め、ニツコリと笑ったのを覚えています。真紅の優勝旗を真

中に立て、金子先生の指揮で、やっと四番まで正確に歌えるようになった栄光の校歌を、藤沢のグラウンドで高らかに歌った時の気分は、実に忘れ難いものでした。

その頃からすでに栄光内でのサッカー部の占める位置は高く、部予算も一番多かつたようですが、今よりは盛況に少く六万円前後ではなかつたかと思えます。高校の全国大会前の練習が激しく、中一などにボールがまわつてくるすべがなく、そういう時は野のランニングで、日が暮れた夕闇の中を気象台に登りおりさせられました。冬も進んでくると寒さに耐えきれず、ももひきの上に短パンをはくと言う、今では想像も出来ない妙な恰好をして、グラウンドに出てくるものもありました。でも高校生は

唯笑うだけで、鉄をも消化する胃の如く、今では感じています。

年も明け、競歩会も終り、中一も終りに近ずいてきました。そして春休みになつて中二の人から、よれよれの薄汚たないストッキングをもらいました。ストッキングの良し悪しには觸れず、ただもろえた事がうれしくて、グラウンドを飛び回つたりしたものです。

ストッキングをはき、サッカーマンとしての体裁が整うと、いよいよ練習も本格的になり、その春には殺人的な練習をさせられ、増々意欲を出し、そして練習に練習を重ねて、今日の十期生が誕生したという訳です。

おわり

雑感

富野暉一郎

中二の一学期に入ってから五年たつた今、こうやつて十枚の原稿用紙を渡されてみると、何だか意外に頭がからつぽになつてしまつていて、少しもペンが先に進むものとしてくれない。しかしこうは言つても、頭のカタスミにバラバラに言いたいことが現われては消えて行くから、それを書いてみたかと思う。

学校の部の部ということ。言つてもなく、わかれのサツカー部員は栄光生であるから、数年前から言われて来たように、部外に対し積極性を示すことは、大切である。しかし、ここを考へな

くてはならないのは、決して自分達の部がそれにふさわしい条件を備えているかどうかと認う。ぼく達十期生のこの運動が途中で少しばやけてしまつたのは、モリチャンが前ダツシユに書いていたように、部内に於ける積極性の発揮つまり、部室を大切にすることや、ダツシユの原稿を書くことや、ボールの空気入れ等部生活や練習を充実させるのに地味ではあるが重要な、ことに涉するファイトの発露が、一部の者に限られてしまひ、それが部全体の雰囲気にならなかつたからである。このことが、今後の部に於てもあてはまるか否かは此からなひか、とにかく、何か事をするに当つて、自分のあり方というものを冷静に反省してみること必要なのではないかと思

う。

2. 勝敗のこと。

練習は何のためにするのだろうか。

部生活は何のためにあるのだろうか。

部生活の価値は、何によつて決ま

るのだろうか。これ等の事は、大か

れ少なかれ試合の目的というもの

につながつてくるのではないだろ

うか。試合の目的を勝つ事とい

着もいるし、目的はベストを尽す

ということではあるが、それを行

いやすくするために、勝つ事を目

的とすべきであるという者もいる。

確かに試合中はだれでも勝ちたい、

勝とうという気持ちだけしかないだ

ろう。そして勝てばだれでも悪い

気持ちはいない。しかし、勝つた試

合すべてが後味の悪い、満足のゆ

く試合であつたかどうかを考えて

みると、その目的が、勝つことに

あるのではないこと、そして勝と

うとする意欲は、ベストという木

の一枝に過ぎないように思える。

後の意見に対しては、充実感とい

うものは、より大きな困難になる

に従つて拡大し、われわれがサツ

カーに求めているのは、最も大き

な充実感であるから手段を目的に

変えるような容易な妥協をしては

ならないと言いたい。

3 勉強のこと。

勉強と部活動の両方ということば

、現実の問題として非常に難かし

いと思う。ほくもその目的を達す

ることは十分にはできなかつたの

で、その決定的な助言をすること

はできないが、次のことだけは言

えるのではないかと思う。「時間

を合理的に、集中的に使う」。

合理的にというのは、時間のムカ

を減らすということであつて、挙げ

ば、昼休みにグラウンドに出て、球

にさわつたり、放課後家に帰つて

ボンヤリしている時間を省いて、

遊んで行くということ。集

中的にというのは、読んでの通り

、他のものに気を取られずに、緊

張してプレーを行ひ、勉強をする

ことをさす。

4 写真のこと。

写真係として、一年間写真をとつ

てみて、改めて写真というものは

難かしいと思つた。今までにフイ

ルム十五本写真四百枚ぐらゐとつ

たうちで、自分で本当に良いと思

えるのは二枚しかない。何しろ黒

白だけでその時のスピード感、緊

張感、そしてプレーヤーのファイ

トやその試合の雰囲気まで出さな

ければならぬんだから。へ少し

欲張つてゐるかな？、今後の写真
氣にほくとしてやつてもらいた
いは、良ハ写真をとることは勿論
だが、それとともに、ネガや写真
の分類整理、部屋に於ける写真の
展示へその時のものはかりでひく
、前からのもの等についでも等
である。なお安く上げる写真屋を
知つてゐる時は（友人、知人等）に
きくと案外見つかる。その写真屋
の値よりも少し高く売れば、利益
が出て、それでまたフィルムが買
えるから、フィルムを予定よりは
やく使い切りそうじ時などはす
ば、非常に効果があると思う。
ちおもいで。

そのころは、今のソフトグラ
ン所は、雑草がうっそうと茂つて
いて、沼のような所もあったので
、ほくは、海よりのアスファルト
の道を歩いてゐた。ほくの左手の
方、草原のかたに、体中どろだ
ろけになつて、球を追ひかけま
してゐる要人達がいた。ほくの
頭は、入試のことではいっは
だ。……

つかしい部屋と、ランニングが終
つた時の何とも言えないうれし
こと、整理体操をしてゐる時見
ける空の美しさ、そして少し後
のことにひるけれども、ヨシさん
へ七期の佐々木民雄さん、カ
ーの虫にひれ、そして、何
も長いから、これだけ人に絶
けないと云えるものをつく
言うことばだつた。

。中三の終りころから、高
一にかけ、ほくの頭の中では、事
あるごとに個人と部とがぶつ
かり合つてゐた。練習がい
やだつた。さ
りたいたとも思つた。サッ
カーを管とする以外に、も
つと何かすべきことかある
ような気がしてゐた。長い
不安定な、暗い時期だつた。
哲ナヤン（九期の田畑さん）
か、全、国大会の神奈川
県の決勝戦で破

出た後の反省会でほく達十期生に「今度はおまえ達の番だから」と言つた時まで。あの時の夕日もきりだつた。

ら、グッシユはついで、

ほくは、グッシユの編集に直接タッチしたことはないが、もつと積極的に、みんなの話し合ひの場として、疑問、希望、文句、研究した事、うれしかつたこと、おもしろいこと等をどんどん書いて、今まで編集者の悩みの大半を占めていた原稿不足を解消すると共に、さらに充実した内容を持たせるべきだと思ふ。だから書いて書きたい事が一つや二つはあるはずだから、最後はこのすばらしい部を去るに當つて、その気統であるすべての事に対するフアイトと、友への信頼を皆がよく自覚し、固くまと

まつて、さらに高い内容、そしてさらに高い活動を通じて、大いなるものを得ることを期待して、このまとまりのむい文を終りたいと思う。

後輩に残す

新井 光二

栄光での六年間は、非常に楽しく有意義な六年間であつた。特にサッカー部が大いに楽しめたことは、二度とない学生生活のよい思い出である。卒業にあたり、ほくの感じたことを勧めたいことを三三あげてみたい。

一、チームワークをしつかり個人の技術がすぐれていても、チームワークがなければ、十一人となつて試合をするときに、それ

だけの力が発揮できるものではない。反対に、一人一人を見たときに、技術が未熟であつてもチームとしてまとまつておれば、うまくプレーヤーのいるチームと同等、はやそれ以上の力を発揮できるものである。特に高校のサッカーでは、技術と気力とを較べた場合、気力の方が重要なのである。フアイトを出すにも一人だけではからまりすぎるだけで、チームから出るフアイトでなければ何にもならない。チームワークは試合に限らず、部運営においても、非常に重要である。スムーズに部を動かしていくためには、皆が協力し、仕事を分担して処理していかなければうまくいかない。

二、ボールに慣れよ
サッカーの技術は、日頃の練習

を積み重ね伸びてゆくものであることばよく知つてゐると思ふが、これを自覺して練習してゐるものが何人ゐるだろうか。練習日に欠かさず練習して行くだけでは、基本技はちぐんと身につくものではない。毎日ボールに親しんでゐなければ、基本技をマスターすることばむずかしい。こんなことはよくわかつてゐるだろうか、よくが前から言つてゐるようには、基本技をつけるために昼休み、放課後の練習を勤めたい。この時間は一時間に満たないわずかな時間だが、毎日続けられどうなるか。正規の練習よりずっと効果的であることは言うまでもない。サイド、パス何でもよい。ボールの性質を体で感じなければならぬ。そして自分の思ふようにボールを動かせる

ように研究努力すべきである。サッカーの技術は高級なものだから、漫然と練習してゐては、大きく進歩するはずがない。うまくなるには、普段から努力しなければならぬ。昔段から努力しなければならぬ。このことを十分認識してもらいたい。

三、栄光生としての自覺を持て、

近年、栄光生についていろいろと言われてゐるが、ここ二三年の間に、栄光生もだいぶ変つたようである。派手な服装、学生らしくない態度などが目立つようになつた。そのようなことをするのは、よくわづかの生徒だが、その人たちは、他の生徒に悪影響を及ぼしてゐる。このような状態で、せめてサッカー部だけでも、本来の栄光生としての行動をとつてもらいたい。いつも自分の行動について

考え、反省し、学生である自分には、ふさわしいことかどうかといつも考へてほしい。

このほかまだ言いたいこともあるが、以上の三つのことを十分考へて、これからサッカー部の発展のために、大いに頑張つて下さい。



日本一紹介

VIC-**修****道****高****校**-TOR

「編集部では、国体、全国大会と優勝し、名実共に日本一になった修道高校に、そちらの様子を書いていただき、できたの近づきに出たらばと思い、手紙を送った所次のような返事が来たのでここに紹介します。」

お手紙拝見致しました。貴校のような優秀な高校から、このようなお手紙をいただいた事を光榮に思っております。私達修道高校サッカー部は、本年度国体、全国大会と勝ち一応完全優勝を成し遂げましたが、本年度は本年度で来年度はメンバーが大分変わるのでどうなるか全然見当がつきません。それで来年度も本年度の戦績に少しでも近づこうと、今からがんばっております。

広島の高校サッカーチームは、昨

年度国体、インターハイと両方共出場した広島大付属高校や山陽高校、国泰寺高校（昔の広島一中）などと大変力が接近しており、本年度でも国体などは出場するのは苦戦の連続で、増して来年度は国体などに出場するのに、大変な苦学を要するでしょう。

ところで練習ですが、私達は他の高校と比べて量はあまり多くとは思っております。時間には試合のない時は大体二時間から二時間半で、試合前二週間頃から三時間位練習します。練習内容は、試合のない時は基礎練習を主として、正確なサイドキック、正確なシュート、正確なトラップなどをし、その他に出あしをつけるために、十メートル位のダッシュを数回くりかえします。試合前は、少しむづ

かしい角度からのシュート、ヘツ
ディングなどをやり、一時両位バ
ツクとフォワードとのフォーメイ
ションをします。主な練習はこれ
位で、その他、バックのクリアー
キックとか、フォワードのドリブ
ルシュートなど、いろいろ変つた
事をしますが、そのような事は全
部サッカーの本に載っていること
で、他の高校と同じ様な事をして
います。ちよと自慢出来る事と言
えば、私達は練習の休みの日がほ
んどなく、休みといえは試合の
終つた次の日か、試験前一週間位
です。その他の日は少しでも練習
をしています。

サッカーは修道の校技とも言われ
て、地位をきめたなら校内では最
高の地位で大変注目されていま
す。模範的な行動をするように
心がけております。大変自慢した
ようですが、とにかく短い練習の
時間中部員全員が、気持を一つに
して最後までフアイトを出してゆ
けば絶対に勝てると思つておりま
す。以上の事を貴校サッカー部の
みなさんが、何か参考にしてくだ
さいましたから光栄に思ひます。
今後手紙その他で両校が交際出
来る事を望みます。

修道高校蹴球部一同より

栄光学園蹴球部のみなさんへ

くだらない詩

十三期 青戸邦嗣

誰かが言つた。

キレイだなあーと。

僕は見た。

そして思つた、

キレイだなあーと。

誰かが言つた。

ツヨイなあーと。

僕は見た。

そして思つた、

ツヨイなあーと。

そして、

僕は、再び思つた。

ドツチも

僕に

似ているなあーと。

随筆・論評

我が中三時代

十三期 渡辺幸男

「畜生、くやしかった、しやくだった。又それ以上に悲しかった。春以来、小島氏を中心に、十七八人の中三部員が、この日のために一弾となつて練習にはげんできた。あくまで、県大会に優勝するといふより一中をたたきのめすといふ目的であつた。その結果、またも返りうちにされてしまった。試合後、ボロ／＼と涙が流れてしうかなかつた。」

「畜生、冬の大会には、やつつけてやるぞ」体の中にもり／＼と新なつアイトが、わきあがつてくるのであつた。

それ以来、夏の強化練習、新学期からはじまつてから、毎火土曜日校役を頭に、皆な、がんばり続けた。この間の練習試合には、まず九月の対金沢中の10対0ひつとうに、十月対藤田中11対0、十一月六角橋中を3対0と、げきはし、十二月二日、最後の練習試合を、一中グラウンドへぶかけて、5対0とこれをやつつける。これで少し夏のうつみんがはれたが、本番で

敗けては、しうがひいので、池所は紫物である。

これらでわかるように、夏以後の練習で、バツクスの充実と、フアードの得意力の増加がめだつてゐる。

その後、学期末試験のため、約二週間のハンデがついたが、終つてから、一週間の猛練習を行つた。この一週間は非常に苦しかったが、みんなよくがんばつて、欠席者はほとんどいなかった。これによつて、練習量の差は、他校と比べて、ほとんどないといふ自信と、欠けていた、チームワークが、かたまつた。夏の終末、この練習は、非常に有益であつた。少々の疲労が、オニ戦になつてあらわれたが、たいしたことではなかつた。

オ一戦対白山中、軽くワ対の、
オニ戦対寒川中、苦しんだ未
ろ対ので押し切る。

十二月二十六日、県大会の最終
日である。とともに、我々の、中
学時代の最後の日であり、いまま
で、ためてきた、力、技を、思う
存分發揮する日である。

準決勝は、予想通り、聖光と当
った。非常に苦戦し、一時は、も
うだめかと思つた。

前半、栄光のフアード、バック
共に、せいさいなく、一点リード
されて終つた。聖光の、Rーのほ
うずと、RWのザンクスの二人に
バック陣は、さんざんかきまわさ
れた。後半は、この二人を、徹底
的に、マークすることに重点をお
いた。

後半、なか／＼点かはいらぬ。

栄光にあせりが見えてくる。十五
分、Rー佐藤、キーパーともつれ
ながら、シュートして、同点とす
る。栄光は、これでようやく気が
晴れ、その後ずぐ、LEEジョージ
か、キーパーの頭上をぬく、中距
離シュートで決勝点をあげそのま
ま押し切つた。

勝つた試合では、最高に、あぶ
ないゲームであつた。甘く見すぎ
ていた感が多分にあつた。聖光サ
ッカー部の発展を期待したい。

いよく決勝戦である。しかし
一中は、準決勝で、抽送敗けて、
戦うことはできなかった。六中か
相手である。六中に、栄光は、案
外、分がいいので、内心、しめた
と思つた。

予想か的中して、栄光にとつて
非常に楽なゲームとなり、4対1

で、ふりきつてしまつた。

こんな軽い決勝のせい、優勝
の感激というものが、わきあかつ
てこなかつた。それには、一中を
破ることができなかつたという、
に残りがあるためでもあつた。し
かし、我々は、誇りを持つた。優
勝するには、軽い気持ちで、出来
るものではない。そして、あくまで
油断は禁物である。こんなことを
忘れず、高校生になつても、一層
練習にはげみ、今一度、あの優勝
の喜びにふたりたいものである。
かんはろう中三諸君！又他の諸君
よ！

特に現中三諸君には、我々に敗
けない立派な成績をおさめてくれ
るよう期待したい。

THE END

あゝ感激！

十三期 相川亮一

晴れて「ダツシユ」の編集員になつた以上自分達の手で有史最高の「ダツシユ」をつくつてみたいという希望があるのはもつともである。だが順の良いもの、歳みごたえのあるものをつくるまえからして原稿がたりない、そこでとにかく「ダツシユ」を厚くするためにはと「現代……」なぞというのかとびだしてくるが、ここにはちよつとまじめなことを書いてみたい。

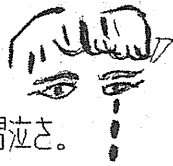
現高一が冬の大会で一中に三ー二と惜敗しせつかくの優勝をのがした日をまだ僕は覚えてゐる、準決勝の時は快晴だったのに昼を過ぎる頃からだんだん寒くなつてき

て、試合が終了する頃になるとついには雪がふつてきたくらいである。帰り道のラーメン屋でエゼンが僕等にむかつて「さあ来年はとつてくれよ」と、ラーメンをまつ間に言つた言葉がまだ忘れられない。そして今優勝しての帰り道あの急角度の坂をおりてくる面談の胸にも優勝の感激の波が押しよせていただろう。

中三か中三としてまとまつて試合、もちろん対外試合をしたのは学院が最初である。点は忘れたが大差をつけて勝つた。別になんの苦勞も要しなかった。むこうが一人で負けてくれた様なものだったけれど試合終了後、小島さんはこう言つた。「あんな弱いところにくんなことさどうするんだ」まつたああの時は、この様にくそみそに

けなされるとかえつて反撥を感じてゐた。勝てば文句はないという様な考えかたであつたからである。それ以来対聖光、「対六中」、「対一中」それに夏の大会の「岡中」「松中」「中」との試合で實際良くやつたといわれた試合はあつたが良かったといわれた事はまつたくなかつた。もちろん今考えてみればその様なことは言われる筈の言葉でないことはわかつてゐるが當時は大分鼻を高くしてゐたために、足許が見えなかつたのだらう、それが対一中の惨敗点差こそ一点差だが、当然勝てるべき相手に負けたことは惨敗であるところからは考へる。しかもその一点は相手のエースにハーフライン付近からバック五人をこぼうめきにされた見事なドリブルによるものである。勝つ

たのびのこのなどと言つていた僕等も、ただ流れる涙で「ウシヨ」を連発するのみであつたといふのは大げさだが、實際涙がこぼれない様に上を向いて歩いた。まさに思ひだす夏の日である。その時は負けた頃けたと云う気持ちだけでよし一中に勝つてやろうなどという気持は更々わかなかった。まったく不思議である。



と立ち男。破れて夢。

現高一の場合は最後のチャンスで負けたよし同じことをくりかえすまい、そうは思つたか練習にはなんとなく身がはいらなひ様だつた。「こんなヒジや優勝なんぞあきらめろ、いつたいやる気があるのか」と言われた。

そうこうしているうちに、早本格的に大会を意識しなくてはいけなひ頃となつた。そんな時過去二回栄光に敗れているとは言え、フクシユウの念に燃え、栄光を吹き消したついでに大会の優勝もさらつてしまおうと言う六中と最悪のコンデিশョンで試合をむかえた。相手はこの日のために夜遅くまで校長先生の許可まで得て練習に練習を重ねてきているが、こちらは試験の為練習の力の字もしていなひ、それでもどうにかこうにか勝つたといふことが何かに、つまり何かになつたらしかつた。そしてそのままたいした練習もせず冬休みとなつた。この練習はこたえた最後の日は半日で終りそのまた大会へ突込んでしまった。たいして心構えもできていながつたがなま

じ心構えもできてないのがむしろやらのやればよかった。

準決勝の対聖光では最初一ポイントされる始末だつたが、それも良くやつてとにかく決勝に残ることになつた。決勝戦はてつきり一中だとおもつた二回目の練習試合で大勝したからと言え一中は最大の敵であることはたしかだつた。ところがでてきたのは六中である。なんとまあ、六中となるといふゆる自信というものがあつた。そしてその自信というものが常に正しい方向へ導いてくれた。笛が鳴つたしゆんかんはもう頭がポーンとなつてそのまま芝生の上に寝転びた様であつた。良い日だつた。グライダーは富士より高く飛んでたし風はなく冬の西陽がさんさんとてりつけていた。もしタイムマシン

十三期の我々

十三期 渡 迎 浩

かあるとしたらそんな昔とは言わない、もう一度あそこへ行きたい思いたすがに胸がきゅーつとしまる様な思ひがする。この様な文の終りには今後の感想がつく、それは只一言、「更にがんばる」ということだけである、それからこれから中三にになれる人に一言、それは一中を恐れるなということである。あまり一中ノくとばかり考えていると一中が怪物の様に思えてきていざという時充分な力がでないということであり決して一中を甘く見ろと言うことではない。さて最後はこれだけ書けばぬかることだろう。

「小島さん、その他の高校生、先輩の方々どうもありがとうございます。これからよろしくお願ひいたします」

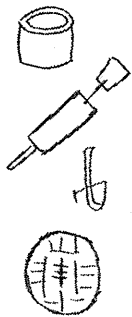
一九六一年の十二月三十一日から一九六二年の一月一日にかけて古い年と新しい年が入れ替りしました。そして、まもなく三学期がはじまりました。このことは、ぼくたち十三期にとつても大きな意味を持つていました。ぼくたちはいつのまにかサッカー部の一人前になっていたのです。まず送挙。去年、ぼくたちは懸命に鍵穴からのぞきました。でもさっぱり見えません。グラウンドに出て遊んでいたら、椅子をつんで上から見ただれか(たれだか忘れてしまいました)が走ってきて知らせてくれました。「小島さんがぼくなんかの指導だぜ」

「小島さん? あああのすかしめる人か。」

つぎはロッカー。ロッカーがもらえるなんて考えてもなかったのだとつてもうれしかった。ここになんでも置いていいていいんです。ぼくが使っている所。

練習も高校と一緒です。新キヤプテン伊東氏ははりきつています。新型サイドキックおよびその練習法。手をブンブン回して走ったり、いろいろな大変です。

今一人前になったこの時、ぼくたち十三期ははりきらなければなりません。



十三期生の新年会

十三期 太田 忠彦

一九六一年度冬の大会に於て、
々々期生は念願の優勝を達成し、
少々喜んでゐるのではあるが、こ
こで有頂点になる我々ではなかつ
た。

明けて昭和37年1月 日、この
御目出たい良き日に13期12名に小
島氏・カツパ等が足もとをつらつ
らさせながら、メイコの家にはバ
ラと集つて来た。午前10時相川
の甫会宣言によつて皆一斉に勝手
な事をやり出す。テーブル・コーダ
ーに罵声を吹き込む者、トランプ
する者……。なんともまとまりの
ない奴等だ。正月早々集つて来て
何もしないのでは田結を新たにし

ようという新年会の意義がない
そのうち主催者メイコ君エネを
出し、キタナイ願を出すところにな
ると一つのテーブルに集り始める
そこで小島氏はだてにはくわ
ぬと一寸説教その後トランプに興
じ、三組のトランプのうち折れて
いないトランプがない程の乱暴さ。
ラスノロマヌケをやって見事
新年初の栄冠をもらった吉田が、
短い足を空気に浮かばせるとい
う手品を行ひ見事に成功。
昼飯になると今まで以上にヤロ
ーの本性を露骨に表わす。しかた
なく朕も同席したが、酒の入りず
ぎたすき焼きと皆の食欲に吐気を
覚え頭へきた。特に新井は我々の
ナベまであさつていった。
昼飯も滞りなく(?)すみ、こ
らで初練習と皆スツクと立つと

思ふと大違い。つうつう言いなが
らキタネエ芝生にハダシでおわりて
誰ともなくゴルフを始める。サッ
カーとゴルフ何か関係あるだろう
ということではゴルフ大会を聞くこ
とにした。メイコが本領発揮で穴
を掘りろホールでスタート(パー
9)。賞品がつくといつので皆意
外に真剣な顔になる。トッポを収
ろう者ブービーを収らう者様々で
結局オ一回は次の結果となつた。
一位、渡辺浩君ワンオーバーで
輝かぬ栄冠を。厭惜しくも吉田、
新井、秋山等と共に2位に終る。
ブービーの方は青山、幸男、カツ
パ、メイコ、久保田等が中途半パ
は駄目というわけであらせりあ
い。結局ラチがあかず終り。
零分後、まだ時間もあまり大変
面白いというのでオ二回を開催。

以下試合経過。オニ回新春ゴルフ大会は招待選手小島田郎氏を混じえて世界各国は送手によって優勝が競われた。前半（パー6）は、

前回優勝者ワシナが8オーバーをたたき、佐藤（パー）メイコ、小島氏（ワンオーバー）の三名に優勝はしほられてきた感じ。後半になつて、ソ連の小島氏脳溢血でブツ

倒れ棄権。前半好調の佐藤（台湾）がワンオーバーでまとめ、メイコ（朝鮮）がパーと仲々の名技を完揮。ところが前半2オーバーだった吉田が後半イーグルでよく追ひ込み、大陸人権（モーコ）の面目を一新した。インドの村田君練習の時ブービーかなんか出して好調であつたかいざとなると上つてしまひちオーバーとなつてしまった。青山（エジプト）は実力以上の出

来で2オーバー。残りはドングリの皆くらべ。決勝の結果メイコと吉田が同スコアで一位。

以上で終りであるが、本場の事をいうと、ホールまでルヤードぐらひしかない。それなのに芝を荒みすぎて失敗するもの、力みすぎる者、空振りするものなど大変面白かつた。

その後カタナイ足で部屋の中へ入り、クイズをしたりトランプしたり又元戻りのワアワア……。進行系相川等の提案で、私の遊ぶのど自慢、式のど自慢を行った。消していけない限りメイコの家 टीアにも残つてゐるだろう。その中で歌つた彼等の歌は、多種多レパートリーの広い者ばかりで、ポピュラー、スタンダード、童謡等、皆思うぞん分歌つた。

最後に再び小島氏の説教と、もすが枯木で……を歌ひ散会となつた。

正月の一日、朕良氏の中に入りていとおかしく過し親睦を一層深められたることを喜びてバイバイとす。

くだらない文章を読む秘訣、頭の神経をゆるめておく等、心を童心にもどす事。

快い思い出

（副主将の二期の記録）

十一期副主将

宮坂 研一

快い思い出として頭にうかんでくるものは色々ある。一九六一

年「快い思い出集」のオ一は四月一日午後四時三十分ごろに家を出十二時半ごろ家に着くまでに行なわれたことである。つまり私の受決である。オニは国体予戦で鎌倉学園に4-2で勝ったこと。意志力の勝利、フアイトの勝利を身にしみて感じた。オ三は九月八日昼休みに始まり、一九六二年一月十三日午後二時ごろに終った一連のできごとである。

今から書こうとしているのはオ三の思い出である。つまり九月八日に「主将」を田島に渡し、私は「主将から「副主将」になり、二期の同色々な仕事をしたということである。主将を辞して副主将になつたこと自体はむしろにがい思い出である。しかし、自ら主将を

まかして副主将になつたということを悔いていない。そうしたことにより、部のためになり、私も楽しい部生活が送れ、私のためにもなつて大変よかったと思う。つくづく思うことは

「オレは女房役が似合っている」ということである。バリバリ仕事をすると一緒に他の分野で細かい補足的な仕事をする人間だということだ。実行力が、決定力が田島ほどないために、同じことを考えていても、田島はすぐ実行にうつすか、私はどうも思案したりしてうまくいかない。そういう責任の大きな、大ざっぱな仕事よりも責任は大きい、細かい仕事をこまごまとやる方が面しろく感じた。副主将になりオ一線を退いて、水旺の練習にも出なくなつた。二

の時考えたことは
「他のK2に負担がかかる」
「K一がだれる」

という心配であつた。オ一の心配は十分あつた。何しろク人しかいないのに一人ぬけたら大分痛いのでは当り前である。特に田島は大変なはずだ。一学期の私の主将としての仕事は、いろいろな雑用のことまでやつてしまつたため、大分重かつた。そこでオ一は、雑用を田島がやらなくてもよいようにすること。オニに運動会召集の仕事は私がすること。この二つを決心した。雑務といつてもゴミひろいから、宣伝のポスターをかかせたり、ボールのこととか、係にハッパをかけること、部員個々の問題、外渉、主将への忠告等がたくさんあつた。時には田島をさしおいて

主将のやるべきこと、決定すべきことを自分でやってしまつて「こりやいかん」と思ったことも何度かあった。

オニの心配のたぬも二度程あったが、私とは特に関係なかった。

九月二十五日から校部員募集があることを他の部より先に聞きつけた私は、田島にろくな相談もせず、宣伝係の高一にボスターを書かせ、リーフレットへちらしを二百枚すらせた。その上教室まわりまでしようと計画したのである。しかし、それは天狗さんに禁止されてしまった。宣伝週刊気味の私たちには、かえつてよかつた。

四月の中ニ募集の時

「中ニは二十三人もいることだし、いくらか入りたいというのが

いるらしいから、宣伝などしなくてもよい。」

とのん気にかまえて、何もしなかったら、どんどんやめて、十三人にむつてしまった。という私に託つてにがい経験があるので、やつ氣になつて始めたわけである。

九月三十日までには私が中一の指導責任者になることが決定された。へこんなことをしていたのでは、主将をやめた意味がないと考えたことは考えたが。三十日は、高校が零嵐と、中学が詩田中と試合をしに行つたため、部に残つたのは富野さんと成宮と私だけだった。

私は九月半ばごろ運動会の召集係責任者になつた。その日も、事務館二階の大会議室で総務との連絡をしたり、グラウンド見取図に入退場順路を書き込んだりしていた。

どうも「今日は中一が最初にくる日だ」と思うと落つかない。一時十五分、会議室の机の上に書類をおいたまま、部室へ飛んで行つた。その日、四時開目が終つてからはまきにとびまわつていた。

部室前に着くと、中一らしいのが十人ばかり、部室に入ろうか、入るまいかと、まよつていた。高一に集めてみると十人、ほつとした。もっと少なかったら、どうしようかと思つただけに、十人来たことはうれしかった。大会議室の仕事は成宮にまかして話を始める。スポーツ大会の時「コイツは入りそうだし」と思ったのや、吉田の弟や松田さんの弟が、冗責に似ず、ちゃんまりと座つていた。へだんだん本柱をあらわして来たか。中一に教えることは大変だった。

とにかく何も知らない。試合をや
らせだつて、フラグビーを手を使
わずにやっていると同じ。サ
イドの円の作り方も知らなければ
まして練習態度なんか、まるつき

り知らない。おおよそ、サッカー部
で常識と思われているものを、教わ
らなかつたつて解りきつていると思
われることまで全然知らない。サ
イドで円の外にボールが出ると、
トックイになつて追いかけて行き
ドリブルで帰つて来たかと思つと
こん度は皆の間でドッシングをこ
ころみるやつが出るしまつ。自分
の体力を基準にしないように努め
ても、ついやり過ぎることもあつ
た。何も知らない。何もかも教え
なければならぬ。小学校一年を
受持つ先生の苦勞が解るような気
がした。懇切丁寧な指導とはこう

いうのを言うのであらうか。この
ごろ十五期も大分技術的にのびて
来たが、練習態度があまりのびて
いないのが残念である。

運動会。田島が総務なので、召
集は私が受け持つことになる。サ
ッカー部は毎年召集を受持ち、持
ち前の団結力を示している。他の
部の中には、ロードレースの選手
何周走つたか数える係があつたり、
万国旗をかざつたりする仕事しか
しない部もあるか……。
とにかく、田島の代りに召集責任
者になる。丁度、中一募集の時
もあり、平常通り、副主将として
の仕事もあるので大いに忙がしく
なつた。まず、フラカード、メカ
フオンをしらべるために、何度
校長の所と理科校舎地下の倉庫の

間を行きたりした。フラカード
のたりない分を大工さんに作つて
もらうようにたの人だり、ポス
トにこのごろ使わないから、も
う無いでしようというのを無理
にたのんで、メカフオンが買え
るようにしたり、会計というもの
に手をやいたり、へうまくやつて
マジック五本をせしめたかとして
いるうちに本格的に忙しくなつた。
プログラムに種目別責任者を決め
て記入したり、中三、高一を種目
別にわり分けて分担させたり、ゲ
ランド見取図に各種目の入退場を
記入したり、責任者にそれを憶え
させたりした。十月七日予行演習
の日は、一日でやることを半日で
やろうというので召集はテンデコ
舞。電話はしょうちゅうかかつて
くるし、中一、入員が全然たりな

くなつた。何しろ、三つも四つも先の種目に出る人を集めなければならぬのだから。途中で雨がふつて来た。何しろ出場者が何も知らない。この調子じや当日が大変と心配したが、八日はトランジスター・メガフォンをかりたので大分楽になつた。しかし、前日の雨のため、フ口がまつたかゆつてしまい、今までの計画がすべてだめになつたりして調子くろつたが、けつこううまく行つて、後で、ほめられた。

指導のことや運動会のある間も通常の部活動は進められた。一学期の続きで、ボールがたりない。ボール管理が悪いのである。ボール係に相談もせず、勝手に、ボールには油をぬるということを決定し、実行した。しかしそれでも、

中一の練習が早く終り、先に帰つてしまつと、ボールには油がぬられていかなかった。ボールにはどんな穴があいた。使えそうな部分がたくさんあるのに、一ヶ所の穴のため、一ヶ所ほつたため、使えず、だめになるボールが多くあつた。そこで、トンペイに相談して、クツ屋でハリと糸をもらつて来て、休み時間にぬい始めた。始めのうちば、うまくいかなかったが、このごろは大分うまくなつた。ゴツがいるものである。ぬうボールがなくなると、今度は油ぬり、ボール係が、私が油ぬりをして、いる所に顔を出しても、やらなひのかシマクだつた。

運動会前後の部屋は、ゴミたみをひっくり返した如く、ゴミゴミがシヤゴニヤしていた。根気のよ

い、部屋係さえ愛想をつかしたらしい。そこで、私が部屋係を手伝ひ、中三を使つて大掃除、いらなハトレパンやクツ、シヤツはどんなすてた。ものすごいホコリ。やつとひとごちあついたと氣をゆるして、いるとすぐもとの通り。今度は田島のお声掛りで部屋大改造。ロツカーも移動し、天井まで払つた近來まれな大掃除。おかげで、皆の顔といわず、口といわず、こりだらけになつたが、塚田先生が「どこの部の部屋だい」とおつしる程きれいになつた。

他にもいろいろな事があつた。部屋の掃除を一人で行つたこともあつた。これらの経験は本當に快い思い出である。心の底から「オレはけん命にやつた」という喜び

があふれる。大きなしくじりもある。

つた。中学の県大会のことである。

しかし、それ以外の多くの面で、

私は部の役に立とうと努力したと

言うことができる。

快い思い出、それは、心の底から「オレは一生けん命になつて努力した」と言える時ではないだろうか。一生懸命に努力する。それだけ人間である以上、人間としての義務である。人は懸命に努力する義務があると痛感した。

とにかく、二学期は自分にとつてよい学期だった。あらゆる係の仕事をし、部のあらゆる仕事のこつを憶えた。しかしそれだけで満足してはいけない。人生七十年。これからが本当の勝負の世界。その中で、この貴重な経験を生かして、立派な人生となるよう努力す

ることを決心した。

この文を読むことにより、部員諸君すべてが、主将、副主将の言葉を理解してもらいたい。この文には出てこないが、主将の精神的な苦労は大変なものだ。チームのまとめ方や、サボりの原因を考えたり、練習計画を考えたり、又学校に対する責任も大変なものなのだ。できるだけ、主将、副主将そして、中学生ならば、指導者に苦勞をかけないようには心掛けるようであるだけ、かれらにかけない苦勞心配をかけるひょうに、立派な部生活を送ることを決心しよう。それは取りも直さず今年の成功に通じ、又君の学年の優勝への道、君の学年の成功への道を約束するものとなるのだから。

思いつくままに

十三期 青戸 邦嗣

今度、DASH編集員が、懸賞募集をして、原稿を沢山、集めようとしていたこと、もう皆知っていることと思います。

そこで、思いつくままに、この最多賞をとることが出来る方法、すなわち、苦勞しひいで、沢山の原稿用紙を消費する方法をのべたいと思います。

まず、全部、平仮名か、片仮名で書くこと。これは、編集者が、あとで、直せるだけ漢字に直すといつてましたが、どうせ、編集者にはそんなに沢山漢字を知っている人はいないだろうし、ヤー、それを又、別の原稿用紙に書き写して、

枚数を計算するとか、字数を計算して、三〇〇で割るなどという、面倒くさいことをするはずがないから、やつてみても大丈夫。

それなら、何故、おまえはそうしないのか、とお思いの方もいらっしゃるやうな気がします、それは、最多賞などという、量ではなく、最優秀賞という、質の方をぬらつてゐるからです。

又、別の方法として、わざと間違え、そこを消しゴムで消さずに、鉛筆で黒く塗りつぶしてしまふのがある。これだと字数がすこし増える。たゞし、これを余りやると鉛筆の消耗が激しすぎて、経済事情が著しくなるからご注意。

それから、長いものを書くより、短いものを沢山書いた方が得である。それは、題と名前を二、三行

簡単にうめることができるからである。

それから、詩を書くのも良い方法である。何故なら、詩は、たいてい、上マヌ、下マヌ位あけて書くものだから。

又、考えることの苦手な人には、本の感想文を書いて、その時、深山、それも長く、引用してきて、あとに、かげんに感じたことを書くという方法がある。

極端な方法では、ノマスに一字入れるなどということをしてしないで、4マスにノ字入れるようにする、というのかいいんじやないかと思う。

以上、色々といいかげんなことをのべてききましたが、僕としては、やけり、このような方法はなるたけ使わないでもらいたいと思いま

す。

部の名について

十三期 渡 辺 浩

現在の部が部の正式な名称は「蹴球部」のようである。部室のカンバンにもそう書いてあるし、グッシユの編集部もそれを採用してゐるようである。

これはちよつとおかしいと思う。ほくたちが実際に話をする時にはほとんど例外なく「サツカー部」と言う。又一般の人にも「蹴球」というより「サツカー」と言つた方がとうりがよい。グッシユ七号では今度迄の内山さんが「サツカーは蹴球を蹴るスポーツ」ではなくて「手以外の体全部を使うスポーツ」なのだから「蹴球」という言ひ方はやめよう」という意味の

ことを書いておられる。

又手帳の「部」の所には『サツカー部』と書いてあるし、だいたいシューキューなんていわれるとローキューやタツキュー、ハイキューやデイキューとまごつちやつてごつぱりわからない。

そういうわけであるから……と書こうと思つたかたはいこといれないでひらたくいっちゃえば、「部室のカンバンをぬりかえたらしい」というのと「ダツシユにもサツカー部と書いたら？」というところある。おわり

現代教養講座

講師

十三期 相川 亮一

この前のヤナ号のダツシユにW君のなんとかつづり方教室とかい

うのかあつたか、今回は当世流行のインスタント講座であり、とりあげるものは流行語についてである。十三期生の会話を聞いてみると時々意味のわからない言葉がでてくる。その様な場面に出会つた人はこれを見てくれれば、容易にその意味を理解できることであらう。

『すいすい』はゆるる流行語の先端をきつた言葉である物事がかんたんに早々とできてしまふということをおのりやす意味である。その出所はあきらかではないか、はやらせたのはMなんとかいう男でこれよりしばらくはこのMの作とみなせるものが流行語の主なものをしめてくるのである。

『ういいうい』は人気上昇の線をたどつていたすいすいに対抗無名の新人N

が創作したものであるか残念ながら大々的流行は示さなかつた。この意味は、ある種の動作に対して自分が興奮した時に発する一種のさけび声であり「すいすい」の都会的なイイカウさに比較してこの「ういいうい」は大阪的などうかささにみちている。

『こまつてしまふ』テレビの早川電気のコマーシャルによつて登場したものでありこれは大々的に流行した。これをひらめいたのもM又はWといわれているがそこどころは記録に残っていない。

『ごんちごひいきに』はゆるる「ごんちシリーズ」のはしりであるこれまで「ごんち……」となるものが全盛をきめめた。これは当世一流の人気歌手坂本九とかいう者の作であるらしくこれからはあいつつ代りにそえ

使われた。ハやく「こんちごきげんだね」「こんちにくいね」「こんちしゃくだったね」などである。

「ああ、こりゃしゃくだったね」これは前からあったが、前氣味ほどはやらなかつたか、それでもそういう流行を見せた。その場合色々な部分にアクセントをつけることにより、自己のそれかくしや相手へのサヨウ実などその意味することがかめつてくる。

「めじやないめ」という意味は筆者にもわからなしか全体の意味としては自分にとってその事は向題ではない、すつたかんたんな事であるしという様な意味である。これは自分の能力が常にすばらしいハということをあらわすための表現でありこれ又Mが主につかい、今やそのMとならばWも盛んにこれ

をつかつていた。この二人は今や流行語製造並に販売の両横綱である。

「いせんいつてる」せんり線とはある一定のレベルを指す。これは他人を定める言葉であり、また元気づけるための言葉である。ただし多少皮肉の意味もはいっていることがあるから注意を要する。

「……てむしんだ」大々的流行けしなハが結構はやった。その出所はまったく不明これまた自分の実力の素晴らしをあらわすものである「かんばれよ、やつてるね」ね、さ、運動に真向から反対したもので親しき心を表わすには良いものである。これは別に特にあたらしくつくられたものではないが、アクセントのつけかたが今までのオードットウスなものとちがっている。こ

こらへんになるとベテランMがややちちWの天下とわりこれ以後の殺のかつやくが見物となつてくる。

「彼」Wがつくつたものらしく助詞をつける場合もある。ハやく「あい」という意味で一種のインテリがかつた表現でありこれより人に対する人柄かいろとおもしろいものとなつた。たとえば「彼の風景はいんだつてね」などと、主語をあらわすものだけでなく他の助詞もぬかすことかけやつてきた。こうすることにより氣取つた言ハ方ができるのであり、自称インテリという人間によつて多く使われている。

「いやだいやだ」過去の流行語の中でも最高級の作品であると思われるその短い反抗の言葉の中には現代人に多少はあるエゴイズムや中産

階級に見られる独得のけんたい感
などかひをまわっている。まったく
この世にはいやなことが多すぎる
のである。それらを別に良くしよ
うともせず堂に不平を言う場合に
のみ使われる。まったくものうげ
な言葉である。この言葉がほんと
うにWの作であるか盗作かである
かはわからぬがとにかくこれに
おいて花形流行語製造業の確固た
る地位をきずいたものであること
はたしかである。

『現代人の……』最新作のものである
流行するかしなひかはからないが
「……」の中にはいるものはだいたい
において非難の言葉である。だが
それを言っている当人は別に現代
人のなんのという制限はない。

以上色々なことを書いたが、そ
の他にも流行しかけた言葉は色々

とある。「さもありなん」古文表現で
あり、その他にも古文によるユー
モラスな意味をもつ言葉がけやっ
た。「おじさん」これはよびかけであ
るがまったく人をくっているもの
である。「おじさん」又は「おじちゃん」
でありそこには年令的な区別はつ
けない、これにこたえる時は「お
ばさん(ちゃん)」とこたえる場合が
多い。「あのほんと」多くの場合こ
のあとに「いやだ」と続く女学生
が使う様な言葉であるので使う人
間に限りがあつた。

言葉というものはその使いかた
により非常におもしろくなる。い
ろいろな流行語がけやつた原因と
いうものは考えてみるとその表現
のおもしろさや、リズムミカルな言
ひまわりの二点が良い場合人気か
びてくるのである。

これから色々な流行語が表われ
るだろうがそれらのものか総て真
におもしろい、つまりほんとうに
良いかもうさをもつ言葉であるこ
とを願つてペンをおろす。

筆者は日本ウソクラブ会員文学
博士(自称)流行語友の会会長

一九六一年十二月

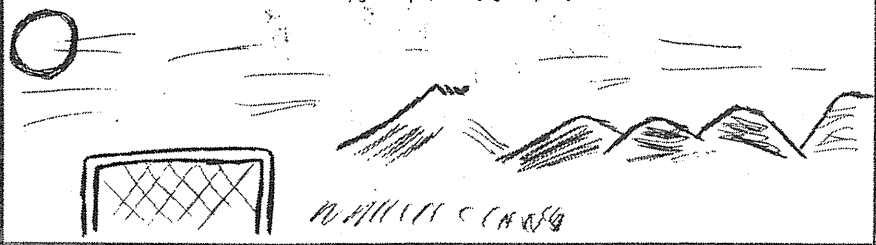
。後記 この後も色々流行語と

おぼしき物がでたが今のと
ころ決定的な拍力にかけ
ものが多く、冬枯れの状
態である。又現代人の「……」とい
うのも前評判ほどはやら
ず今の株と同じで低迷を
続けている。

。今はやりかけている言葉。校
「又は奴」はあれが好きなんだ
つて。

中学県大会

13期 青山明夫



県営につくともうどこかどこかが試合をしていた。高台の冷たい空気が何か旧く道を緊張させる。今日は、県大会栄光は一回戦、シードなので二回戦からだかになく、一回目の試合対白山中学の試合である。早々に着がえを例のどての斜面として、練習を始める。我々からクレイで行われた。ぼくはまだローンでやつた事がないので早くやつて見たいと思つていたのでか……。試合前の練習はバツク、ホワード共に調子は良くなかった。後で見ていた白山の連中が「ああ、これなら勝てるよ、45点は入るよ」と言つていた。市村さんから、グラウンドがバサバサかみパスは強めにとの注意。考えてみたのぼくはクレイも始めてであった。ピー、ホイッスルがなつた。

二時から中学サッカー生活のラストを力尽きる最後のチャンスである。県大会が栄光にとつて実際に死まるのである。夏に練習不足のせいもあつてか一中に苦手をなめてハるので今度は絶対に負けれない。練習も十分にした。緊張した一瞬であつた。試合は栄光が一方的に押した。時々せめられだが、さしいわい敵のホワードが余りうまくないので栄光バソクも適当に押さえた。試合内容には特記すべきことはなかつた。ただし、余り良覚えではないのでハソきりとは言いかたい。三回戦オ二回目の試合は寒川中。前中本町中との試合を見たところではたいした事はなかつた。思つたが案に相違するものもないので、ダツシユが良く、クジタジであつた。試合前市村さんから

ローンはスベルから気を付ける。
パスはサイドがのびるから小さ目
にとの注意があつたが、本当にそ
うだった。ダツシユしようとしてグ
と足に力を入れるとソルツと行く。
この試合もスよく覚えていないが、
ハーフタイムは小島氏の怒ること
く。お前らこんな試合をして長
バと思つてんのか。はずかしくな
いか。

しかし、実力の差というやうな感
じでミス入りバツクも無失点で勝
つた。審判をした大中のオツサン
がスビーデイな良い試合でしたと
言つたが栄光としてはふかいなか
つた。そして、何とかかんとか、
準決勝まで来た。相手は？ 聖光。
しかし彼らは前に試合した時とは
全く比べものにならないほど強く
なつていた。強敵であつた。始め

は、前に8対2の大差で敗つてハ
るのどきがゆるんだのかバツクか
もたもたして変なシュートがコロ
コロ入つてしまつた。始めての失
点。本当に申し分けないと思つた。
大会前の練習で清水さんかのウイ
ングのつめ方を教えてもらつたが、
それにもかかわらずサンクスと坊
主にスイスイ抜かれ、ピンナの元
を自分から作つていゝやうでなさ
けなくなつてしまつた。前半は聖
光のダツシユに押されてついに得
点できずノーリードされた。
ハーフタイム小島氏先輩諸氏にさ
んぞん注意された。後半はぐは相
変わらずあせつてばかりはダメダ
ツたが、ジョージ 佐藤のコンビ
でミスを入れ何とか勝つた。何だ
か試合することゝ調子が落ちて行
くやうな気がしてしゝうがなかつ

た。向う側のフロッツでは思つた
通り一中と大中が残り、白熱の好
試合を演じた。一息入れれば又入
れ返す。本当にすごい試合だった。
六中勝ち又のシュート、一中佐々
の強さには目をみけつた。しかし
延長同点でまだ勝負がつかず抽選
となり決勝戦は対大中と決つた。
(それにしても六中は2回も抽選で
勝つてゐる何とズラズらしい)前
に練習試合で2回とも大中に勝つ
てゐるとは言え公式戦は始めてで
ある。六中もさうとう練習したの
しい。こちらには20分位前かの
練習を始めたが、向うはちよつと
サイドをやつた程度で決勝が始ま
つた。まあ、今まで三年間で学んだ
すべてを動員してこの試合に勝た
なければならぬ。中学のサツカ、
生活をかざる最後の最後の大詰め

だ。絶対負けられない。これに負けたりもう二度と中学のうちに優勝を味う事ができないのだ。絶対に負けられない。ピー、試合が始った。もう夢中だ。何も覚えていない。知らないうちに一失入っていった。球はよく動いた。両方ともパスのチームだ。前半だが後半だか良く覚えていないが中村かハーフライン村近からぞつかくゴール前にけた。それを佐藤が倒のキーパーともみあう得意のやつで入れた。印象的であつた。後半六中ば振れたせいであらう動きがにぶつた。栄光は最後までよく走った。又突が入った。もう勝利は手中にあると感じた。しかしにうれしかつた。がまだ試合中でピンとこなかつた。六中の奴が中距離からけて、それが青戸の頭を越して入つてしま

った。しかしまだまだ負ける心配はない。そしてさらに走った最後まで。みんな必死だった。ピーホイッスルがなった。勝った。果下が一番強いチームはなつた。もううれしくて、しやうがなかつた。ハナマキをしてかんばつた。相川君ことモツネさん、セクターの秋山、皆いつもゲラゲラ笑うがあの時ばかりは本当に感激した面持で本当にうれしそうに笑つた。セクターサークルの所に集つて肩をたたき合い、優勝くと言い合つた。審判が「4ノで栄光学園の勝」と言つた。4突も入ったかと思つた。先輩後輩の見守るなかでランニング、酋の作つてくれたゲートを通る。ボカボカなぐられたが全然いたくなかつた。うれしさと感じただけだった。表三ヨウ式(全くひんじやく

だ)がツン公が優勝カップをもちつた。あのカップは実際に栄光にくるのは初めてだ。そうで、ぼくたちの手でもちて来たのだと思うと鼻が高い感じがする。メダルをもちつた。余り良いものではないが、そんな事は問題でない、今までの努力の結晶である。金のメダルよりよほど良く見えた(少くともその時は)藤沢の商店街へ出てラーメンを食べて優勝を祝つた。(その時みんなは優勝した時よりうれしそうな顔をした。腹かペコペコだつたから)。帰りの電車でも笑ひは後をたたなかつた。本当に優勝とはいいいものだ。又してみたい。何だかまとまりなくだらう書いて来たが(試合内容も良く覚えていないので細かい事は書けません)でした。どうもすみません。最後に十四期にもぜひ優勝の感激を味つてもらいたいと思う。もちろ

それには努力して 練習しなければならぬ。ぼくたちも始終全力を尽したとは必ずしも言えない。十四期にはそんなことがないように、まじめに努力してぜひ夏冬共に優勝してもらいたいと思う。とにかく優勝したものにだけに与えられるあの感激はいいもんですよ。おかげ様でたいしてうまくもなかつたいたけきもしなかつたのは本優勝のメンバーに加われたのは本当に幸運という他はありません。ここで多くの友人諸氏にあつくお礼を申し上げて、県大会優勝の感激ばかりで余り面白くない文章を絶りたいと思います。 以上

戦績
○二回戦対白山中学
栄光 7 — 0 白山

○三回戦対寒川中

栄光 3 — 0

○準決勝対聖光

栄光 2 — 1 聖光

○決勝対六角橋

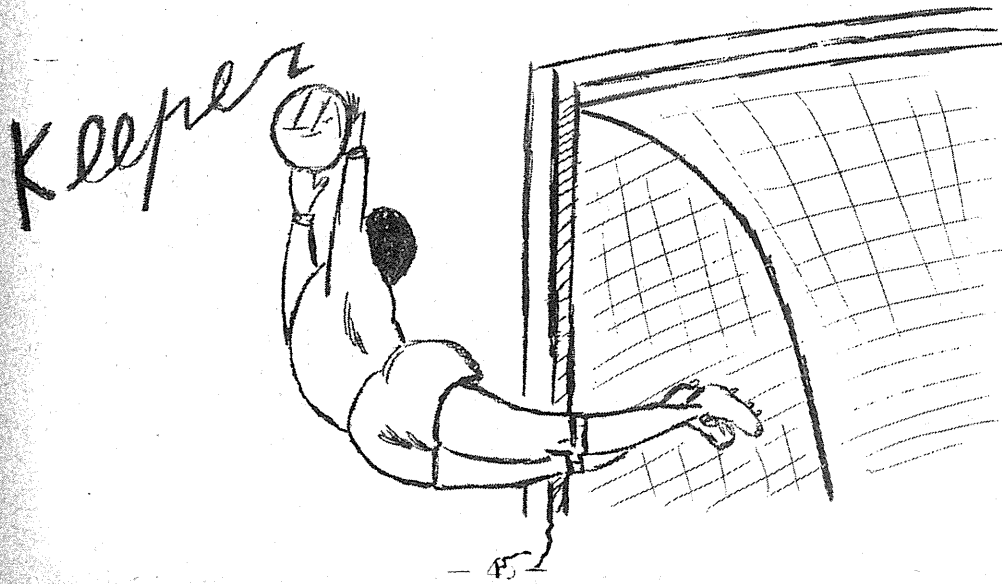
栄光 — 1 六中

メンバー

(文) 菅 小
(幸) 田 山 川
(茂) 保 田 村 田

青中 青 吉 秋 相 渡 佐 村 中 久

G K { F B { H B { F. W {



新入部員

十五期生



十五期生諸君へ

十一期 宮坂研一

これは中一の日誌に書いたこと
そのままであるが、他の学年の部
員にも読んでいただきたい。

十二月二十三日

本日をもって私のうけ持ちの鍊
習ほとんど終了。あと新学期に一
二回あるのみ。

この時にあたり君たちには次のこ

とを望みたい。

常に、いつでも、どこでも、男
であれ。

へ責任感を持って行動すること
サッカー部の一員である以上、
人間である以上何らかの責任があ
る。君達中一には練習に出る義務
と責任がある。他にボールのこと
部室の清潔のことなど自ら積極的
に参加し、責任を持つて事をなし
とげるべきである。

又栄光生として特に試合の時な
どにおいては一品な、立派な態度

をとらなければならぬ。

二、目的をしつかりつかむこと。

「自分は何のためにこれをなす
か」ということをいつも心にしつ
かりと描くよう努力すること。日
々の生活のこまかい所まで。

例えば。

何のためにサッカーをするのか。
「体を強くし男らしい人間に
なるため」

何のためそういふ人間にならな
ければならぬか。

「社会人として立派に働くた
め」

「何のため立派に働かなければな
らぬのか」

この後の答は社論でなろうか終
局的には「人間の目的」につな
がる。

もっと身近な例で行くと

「なぜ物を食うか」

「なぜここで取組合ひをするか」

等。この答は真実であると信ずるから君達はこの答を自分のものとしてほしい

「いつも自分の行動に責任を持ち目的を持て」

三、人のためにつくすこと。「人をも我身のごとく愛せし」

人は誰でも自分がかわい。自分の利のため安樂のためにはどんなことでもする。この愛を、自分に対すると同じように、人にも分けてあげること。

「人の身になつて考えること」

「例」

A君は練習をサボった。

Bさんという高校生のコーチヤー

はどんな気持ちだろう。

BさんはA君たちのことを考え

「どうしたら強くすることができ

るだろうか。どうしたら、おもしろく、体力的無理なく練習計画を

たてられるだろうか」といつも思

案し苦心しているのだ。A君は自

分の安樂のためBさんを悲しませ

Bさんの好意を無にしてしまつた。

又A君はBさんを悲しませただけ

でなく、自分自身も損をしてしま

つた。

（その他の例はもうもうある）

最後に、

練習は絶対にサボつては行けな

い。君達はコーチヤーの苦勞を考

えたことがあるか。練習計画をた

てることは大変なことだ。

「どうしたら、どんな練習をし

たらうまくなるだろうか」と考え

教練場の練習種目をえらび、前か

らの計画とてらしあわせ、練習時

間、天候、コンディション、体力

その他いろいろなことを考えて練

習計画をたてるのだ。試合前にな

れば、病気になるまいようにとか

試合中つるのではないかと心配

する。又チームとしてその学年を

まとめあげるのは大変なのだ。こ

れはやつてみなければ解からない。

今始めたばかりの君達は今後絶対

にサボつては行けない。練習中し

やべつたりふざけたりしてもいけ

ない。コーチヤーは真剣に君達の

ことを考え君達のため、自分を犠

牲にしてやつてゐるのだから。

オー練習をサボつてはうまくな

りっこない。今後中三、KOKO

になつて果下A級のチーム、A級

のプレーヤーになろうと思つたら

分の基礎からしつかりやること。

私は今になつてこんなことに気がついた。K2の終りになつて気がついたのではおそかつた。もつと早く気づくべきだつたと痛感した。あとのこり少なな栄光生活において立派に活用しようと思う。いめばこれは私の反省録である。

サッカー部

C1A 小寺 秀俊

ぼく達中一のサッカー部員は現在十四人である。そのうち半分以上の八人を我A組かしめてゐる。我々がこのサッカー部にはいたのはつい最近二学期の初めである。「中一サッカー部員は部室に集まれ」と善いた紙が教室のうしろにはつてあつたので放課後部室の前までいった。部室の前で、はいろうかはいるまいか少しためらつ

ていたら中から「中一か、はいねえ」といわれたので中へはいつてみた。シヤツやぐつがあらはつていた。なんのにおひたか知らぬいがすぐいにおひがした。宮坂さんがサッカー部のかいたちかどにういて話してくれた。フアイトが大事である事はいうまでもない。その日から練習をばじめた。その日は雨が降つていた。さるものがなほのでサッカー部のユニホームを着せてくれた。体育館でみぎつきヘッドをした。おでこのまんまん中にあたると気もちがよいがいに所に当らずのう天をかすめていくような所に当るとすぐいたく毛が何十本もぬけるような気がした。みぎつきヘッドが終るとこんどは外へ出て練習をした。そうとう雨がふつていたが堅くなかつた。雨

とあせがまぎつてびしょびしょになつた。トレーパンもくつもどろんこになつた。家に帰ると六時を通ぎていた。サッカー部はフアイトが必死だといふべく思つた。

対県鎌戦を見て

十五期 狩野 覚

私はサッカーの試合というものを初めて見た。まだルールなどはよく知らぬがフレイヤーのフアイトだけは実によくわかつた。一番大きく感じたことはサッカーはフアイトがあつてこそ立派なものになるということである。試合全体を通して見てみると、前半は、栄光がものすぐいフアイトを得意をえた。しかし後半になると果敢もずいぶんがんばつて(そ

ばで見ていると何だか相手が体当たりをしてるように見えた。どうとう同点になってしまった。

いまさの文句をいつてもはじまらないがまず最後に入れた一点がオフサイドでやりなおじになったこと（これはどうみてもオフサイドではない）それに同点になったらばくじびぎでなく延長にしてもらいたい。などまだまだいつはある。

この場は男らしくぞつぱりとあきらめよう。

この試合を見て感じたのは、ほくたちもフアイトを出して今から十分に練習すれば、どこにも負けないような強ハチームをつくれるということだった。

入部

十五期 野 口 明 男

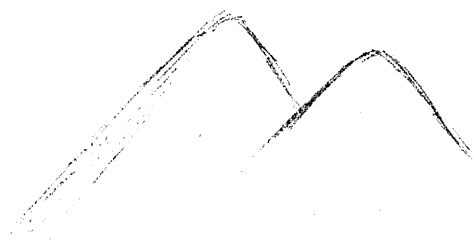
一学期、学校の帰りグラウンドの側を通ると「フアイト」「フアイト」という勇ましい声がした。サッカー部の練習だ。ぼくは立ち止まってしばらくそのようすを見ていたら、足でボールをけつたり、頭ではじいたりしていた、その時ボールがここへころかつてきたのでひろつたら、実にかたいボールだった（今までゴムマリばかりさわつていたから、かたく感じたのかもしれない。今はそうかたく感じない）よくこんなボールを頭にぶつけていたくないもんだなあと思つた。そしてその時は大変乱暴なものだと思つた。二学期になつて、先生から入部願いと書いた紙をわたされた時、先生は「なるべく中一の時はスポーツの部に入つて体をきたえなさい」と言つたので、スポーツの部

に入ることはきめたが、スポーツの部にもひろひろあるので大変まつた。その時、ぼくは、いつか見たサッカー部の勇ましい練習を思ひ出し、栄光は男の学校であるから男らしいスポーツをやりたい、それにはサッカーが一番だと思ひ、サッカー部に入る事を希望した。こうしてぼくはサッカー部の一員に加わつた。そしてサッカー部の一員であるからには、まず部室を知らなければならぬと思ひ部室へ入つた。ところが、その部室の中のかたないことにはおどろいた。まん中につくえがあり、その上にはきたないトレパンや、きたないシヤツがいつはハ山のようにな積みかさなつていた。そしてこちらにはボールがころがり、スパイクがあり、あちらにはあみのようなも

のかあって、まるでこのけノカリ部かできてからそういをしてはいはいようた。しはらくしてビーの教室でキヤプテンの話があつた。まず、キヤプテンが自分を紹介して、会計の成宮さんを紹介してくれた。それから、ケイドキソクなどの説明をしてくれた。そして、話が終ると、「さあ、これから練習だ」と言つたので、みんな「今日からもうやるの」と言つて、びつくりしたような、喜こんだような顔をした。ほくたちは、トレパンに部室にあつたシヤツをかりた。最初の練習の時の事は忘れてしまつた。しかし前日だったので体育館でヘッディングの練習をやつたのだと思つた。最初け鼻の頭に當つたり、頭すれすれに當り、かみの毛をすつたりして、たははんはたい

かであつた。たかたんたんちれてきてしようずともいえなにか、どうやらはしをかえせるようになつた。こうしてみると、一学期にサッカー部の練習を見ていて、ハタハたろうな、と思つた。ヘッディングもたはしたこじやないかと更つた。それからの練習曲せをカドの教室であつた。そろそろとたくさん人が集まつてきた。最初に中一が前に出された。前に立つたの、みんなこれぞうな顔でじろいを見るのでわしどきどきした。そして色々な人が学年別で紹介された。最後に又、おくれて来た人がいると言つたのもう一回、中一が前に出された。今度は最初よりもおちついた。それからの毎週土曜日にほくたちは、キヤプテンと一しょに、サッカールの練習には

行んでゐる。以上がほくの入部のとこの事をした。是はキヤプテンにたのまれた喜いた作文なので、又ほくは小学校の時から作文カーはんにかてたつたので、まとまりめつかない作文になつてしまいました。



トラック

十五期 山口 修司

まだ来ないのかなあ、おそいなあ、自衛隊の車は動くんたらうなあ。そう思いながら、又せいのびして、遠くの道をみた。

ここ、われわれ中一のチビ部員が集まつて、くだらない話をあきすにしている所は、高校校舎前のいづも部の知らせの黒板を、よつかからせておくロータリーともよぶ所である。今日、十月のある土曜日、これから、栄光対、武山自衛隊との一戦が敵地であることになつており、われわれ中一のオチビさん達は宮坂さんの後に、くつついて、高校のお兄さん方と一緒に、敵地へ、なだれこみ、応援

兼、メイ試合の見学を、行うことに、なつてゐる。

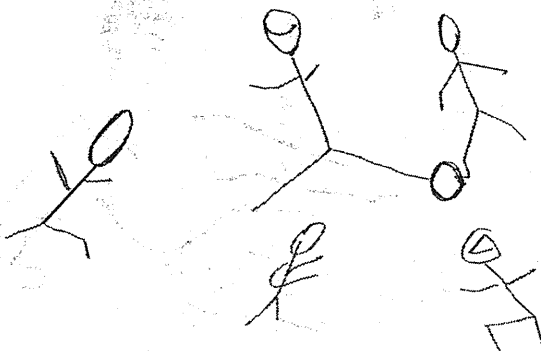
空は晴れぬたり、秋の日がソフトにふりそそぐ絶好のサッカー日和、といたいたいが、あいにくと、今日は、映画館とデパートがもうかりそうぬ、秋雨かしとしと降る屋内娯楽気候である。

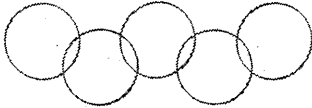
全く、自衛隊何してんだらう。戦車を特車つてよんだつて、一種の軍隊の変型である自衛隊だらう。彼等は、一時間を一分とみなすのであらうか。トラックでむかえにくる予定時刻から、もう一時間四十分も、たつた。

トラックにのれると思つてはりきつてゐんだ。

トラック早く来い。
一宮坂さんが事務館から、すつとんで来た。彼の話によると、向い

合わせてみたら、自衛隊は、鑑学と、もう試合始めてんだつて、栄光と約そくしておきながら、どうだらう。この責任感のなさ。
アーア　トラックはお流れか。





オリンピック強化合宿

伊 東 一 雄
越 智 信 利
12 期

昨年の十二月二十六日から二十
九日まで世間の暮れのあけただし
さを忘れて、藤沢県営グラウンドに
選手二十名が集り、鈴木忠田大西
氏のコーチのもとに三泊四日のオ
リンピック強化合宿が行われた。
この合宿は栄光からは、市村佐藤
両氏の代理として、伊東越智の二
人が参加した。

これは技術面では標準的なもの
に、精神面では世界的なものとし
、神奈川県から一人でも多くのオ
リンピック選手を出したいという
素朴な考えから行われたものであ
った。しかし練習は栄光での合宿
よりは楽であつたし、食事も数段
と良いものであつた。又全日本代
表選手である内野高森両選手が、
半日づつ来て我々を指導して下つ
た。この合宿を通して、他の学校
の生徒との交わりも出来、様子も
知ることが出来て大いに有意義な
ものであつた。そこでこの合宿で
得た種々の技術を紹介してみたい
と思う。

ドリブル
ボールを見つめて走るのではな
く自分より三メートル先を見る
ようにする。こうすると、敵がマ
ッてきた時、次の動作にうつりや
すいからである。又体を柔かくし
ておいて次の動作にすぐうつれる
ようにしておく事も大切である。

その他、ボールコントロールを
つけるためにパントキックという
ものをやった。これは体中を使つ
て出来るだけ地面に落さないよう
にするものである。暇な時を見つ
けて練習すると良い。

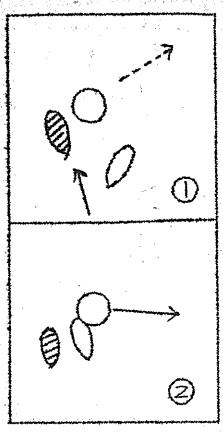
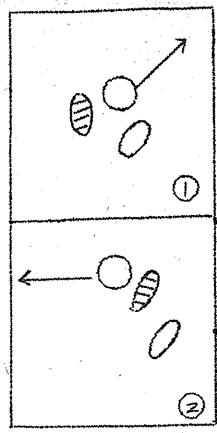
ドリッジングを使つたドリブル

① 斜にドリブルして、強いアウトサイドで急角度にまげる。

② ドリブルダッシュをして急に止める。この時体がボールの前に行かないようにする。

ハるハるなドツジグ

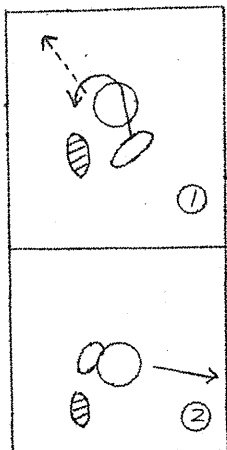
① サイドについて、アウトサイドで向きを変える。



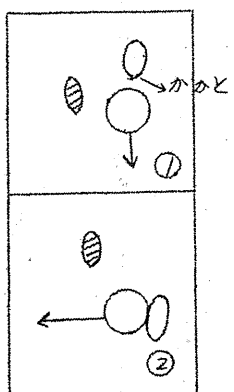
② 片方の足をサイドしようとして逆の足でアウトサイドを使って

むつてハく。

③ サイドする方の足をボールに当てないで、ボールの上をまたぎアウトサイドをつかつて押し出す。

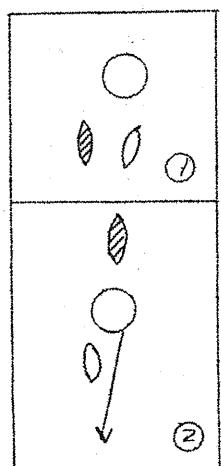


④ ボールをかかとで蹴って横にはたたく。



⑤ ドリブルしている時かかとを使

つて後に押し出す。



頭のサッカーをやるのに、パスワイクも大切であるが、それにドツジグを取り入れれば、見ていてもやっついてもおもしろいサッカーがやれるようになると思う。だからこれらのドツジグなどを取り入れたり、又研究して新しい方法を網み出すように心がけるようにして下さい。

2) サイドキック

① 一度止めた後②直接③ドロップキックへサイドで④面は一人置いてそれを越すようなドロップ

キック。

i) つま足に力を入れ、足首を完全に固定する。

ii) 軸足はボールを出す方向へ向け、ひざのクッションを入れる。キックする足は、もものつけ根から開き、足全体をスウインする。その時キックする足は前へ出るようにする。こうすると正確で、速いボールが出せ、又上がらなくなる。

3) インステップキック
サイドと同じ事をやった。

i) サイドと同じようにつま足に力を入れて、まつすぐにのばし完全に固定する。

ii) フォワードがシュートする時のキックは、ひざから下の振りを早くして、足を振り上げない。大きくキックする時に

は、後へも大きく振り上げ、最後まで振り切る。

4) トラップ

A) サイドを使ったトラップ

① 普通のトラップ ② ワンバウンドのトラップ (くつの裏を使用)

③ 浮き球を直接トラップ

足でのトラップはボールを早くパスする目的からトラップした逆の足で行のうようにする。又サイドをするようにして引きながらトラップする。一つのドッジングともなる。その他三百六十度回転をやった。これをする時まずしつかりふみこんで完全に一回転すること。(頭を越すボールを後向きになつてくつの裏でトラップ。これはフォワードが攻撃の時、頭を越すボールを敵に取られる前に自分のものにするためである。)

B) 胸のトラップ

これは直接キックする時に使用する。この時、アゴを引き胸をハっぱに広げて胸にのせるようにする。又ボールがきた瞬間に胸を広げること。

C) 頭のトラップ

5) ヘッドディング

① 自分で上げてヘッド ② 投げてもらったボールをヘッド ③ ジャンプヘッド (三人組)

i) 首をしつかりと固定しどんな事があつても動かないようにする。

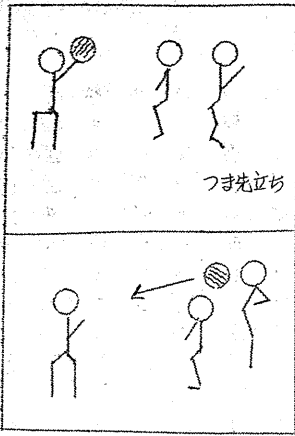
ii) ボールをしつかりと見て、全体をバネのようにして、ボールをひきつけ額に当てる。特に上半身をよく使つてバネをきかすことが大切である。

iii) ヘッドディングでボールの方向

を変える時にはボールを出す方向に頭を向け上記の方法で行う。ボールをよく見る事が大切である。

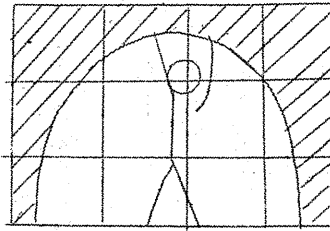
ジャンプヘッドの練習方法

自分の前に一人立ち前より敵の頭上を越えるようなボールを出して面白い、ジャンプヘッドをする。この時首を固定して体をスウィングすることが大切である。ヘッドする者は必ずつま先立ちでいること。



6) シューティング

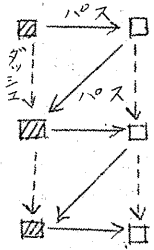
ただボールをゴールの中に入れてというだけでなく場合によっては正確にシュートする必要がある。この練習としてゴールをたてて四等分よこは三等分してそのどこへでもシュート出るようになることがこのましい。



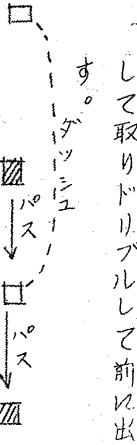
シュートは斜線の部分をぬうようにする。

シューティングの他ボレイキツ
の練習もやつた
りパス
① トライアングルパス

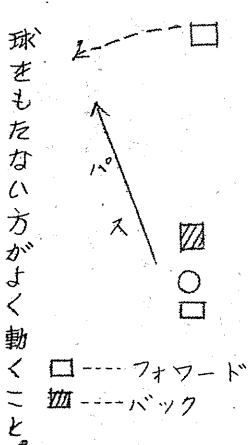
② ハサミパス



③ 二人並んで前の者がボールを出し後の者がそれをダツシユして取りドリブルして前に出す。

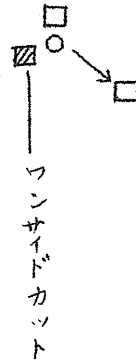


④ ニ対一

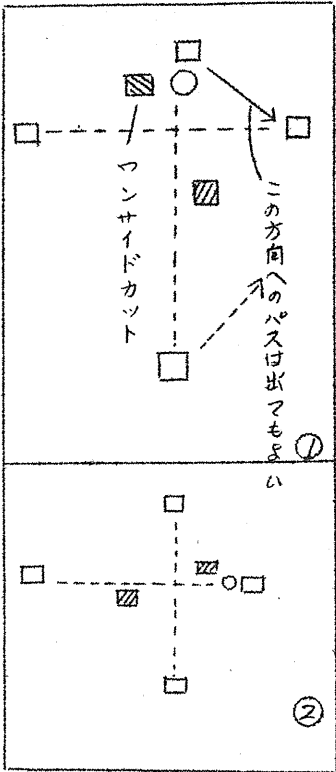


二対一だけでかくバックスは、ボールをキープする者との距離があるときは、両者の動きを見るが、一ニメートル位近づいたらボールだけを注視してよい。

⑤ 三対一（カサ型配置）



⑥ 四対二



フォワードは三対一の時のカサ型

ランニング

に位置を取り、もう一人はボールをもった人の反対側に位置をとる。この練習はフォワードがバックスの間を抜くものであり、又バックスは門にたらないようにする。

9) 体操

- ① カを抜いた普通のランニング
- ② フロールをしながらランニング
- ③ 背泳ぎ
- ④ バタフライ（その逆を）
- ⑤ スキップを

（かもしかのようによくは収納にももをつけるようにする）
⑥ ジャンプヘッドしながら

⑦ 短いダッシュを入れたらランニング

⑧ 体の各部分（足手など）の力を抜いて良く振り、血液の循環をよくする。

これらの体操は現在全日本の練習で使用され、体をほみほぐすのにはよい。又寒い日等この体操をやるように限まる。

10) その他
ボールを見ずに交互に足をのせる。これはボールに対する感をつけるためである。

11) チョップキックの使用法
日本のサッカーは平面的であるといわれているが、これは一つの欠点である。そこでこのチョップキックを使って立体的にすること、強くなる方法である。

すハが、カットをせしめやすハので、
テヨツプを使つて敵の頭を越して
攻める方が簡単にうまくゆくので
ある。この時ボールの落下する地
点とかけこむ地点とか一致するま
うに練習することが必要である。
但し、栄光の場合浮き球に対するト
ラップが弱いので、このトラップ
が出来てからのことである。

付記

一連の個人練習

耐久力とスピードを増すための
ランニング
(1) ボールをアウトサイドで押し出
しながらドリブルして走る。はじ
めはすくなくとも二百メートルを
ゆつくりジョッグで、次に全力疾
走で二十メートル、次は二十メー
トルとゆつくりジョッグ、次に三
十メートルを全力で、次に三十メ

ートルを全力で、次に三十メー
トルをジョッグ、次に五十メートル
を全力で、そして五十メートルを
ジョッグという風に交互にインタ
ーバルトレーニングを行う。以上
のようにして多少疲れたところで
しばらく休み、さらにはスプリント
とジョッグをくり返す。もちろん
常にドリブルしながら走る。もし
て本当に疲れたと思ったら全力で
長い距離を走つて終りにする。

からだづくり

(2) ボールを両手で頭上に支え、地
上には上を向いて寝る。反動をつけ
て上体を起しながらボールを出来
るだけ高く真上に投げあげる。ボ
ールが地面に到達せぬように両足
ではさんで受けとめる。この一連
の動作を休みなく行う。少し慣れ
たらボールを少し離れたところ

あげ、はつてはつて足ではさんで
受けとめる。

(3) ボールを片手で高くあげる。ボ
ールの落下点に走りより、バウン
ドするボールをトラップして元の
位置に持ちかえる。この動作をく
り返す。

(4) ボールを投げあげ、ジャンプヘ
ッドで壁に向けて打ちつける。体
全体をバネのように働かせて、道
を固定して行なう。

(5) ボールの上にはすり、両手両足
をあげてバランスをくずさぬよう
にする。

技術練習

(6) 壁に向つてサイドキックのパス
を続ける。距離を一メートルより
十メートルまで増減する。

(7) ひとりでボールをヘッドインゲ
をつづけて上にはつきあげる。

(8) インステツプ、もも、胸、頭でボールを下に落さぬようにする。
(9) ボールをあげ、胸、インステツプ、ももでボールを受けて靜かに下に落す。

(10) ヘツディングの突きあげ二回行つた後、下にボールを落し、バウンドしたボールを蹴り上げて、またヘツディングをくり返す。

(11) 壁、ネットに向つて強ハ正確なキックの練習。

(12) 頭ごし後方にボールを投げ、すばやくターンしてホレーかハーフホレーで壁に向つて低ハドライブキックをする。

(13) ボールとともに走る。ペースを変え、横にステツプし、時には逆もどりや、ターンしなから走る。

以上述べた事は、特に高校生に對して望むところだ、これらは週

二回の練習内では出来なハことであるから、自分で暇をつくり、昼休み、放課後など、いつでも練習しておいてもらいたハものである。

練習試合の スケッチ集

対翠嵐戦

一月二十八日(日)

一月二十八日の日曜日は、高一是はぎやかな横浜駅西口に集まりさつそうと翠嵐高校に乗りこむ。中三も村田、青山、相川、渡辺(達)君らからきている。それに中一の菅原、坪野の両君。それに田嶋さんの可愛らしい弟も応援に来ていた。我々の通されたのはもともな部屋でなく、吹きっつあらしの屋上。寒くて寒

くてカタカタふるえた。

さて試合は、高一全員と高二の田嶋、吉川、小錦の三氏出場、グラウンドがかちかちの上にはどろつぷがほろほろしてゐるので非常にかげにくい。ひざをすりむくもの続出。それでも横川のクリンシュートなどを交えて、前半を3対1で終了。後半内容的には一進一退の狀態であつたが、越智高野の活躍によつて3対0、かくして新人戦を控えたこの前哨戦も対ノと手回くものにした。終つて屋上にもどると、怪人のバックからミカンの皮だけが出て来て、彼氏アツオレ皮だけ持ってきてる。不思議だなあじと盛んに首をひねつていた。

反省会もすんで家路につく。バーストツプの前より立派な屋敷の表

札が何と「高野」。アチヤコが「これホ
クンテの別荘。よってけよ」なんて
綱子に束ること乗ること。

横浜駅につくと、田舎者にはあ
の通りのけなやかさで、誘惑が多
い。みんなそれに引つかかつて、
それを徒党を組み、高島屋、名
品街、相鉄文化会館などに押しか
け、あらんかぎりの悪さをつくし
て帰った次であつた。

栄光
311
310 翠嵐

対 聖 光 戦

「聖光まで行つたのだが」

十三期 戸田忠澄

一月二〇日三学期が始まつてか
ら二度目の土曜のこと、中ニを主
体とする混合チームは聖光チーム

の挑戦を受け、わざ／＼とわしか
け、所狭しと暴れまわつた。

三回戦の風変りな試合は、聖光が
ランド特有の強風の中で始められ
た。一回戦運よく風上に陣を構え
た混合チーム、準決勝にまで進出
した聖光チームを相手に奮戦し、つ
いに一点を先制した。かそのプレ
ーは実に荒削りで、試合前の練習
不足を悔ませた。僕は少しおくれ
まぐランドに出たが、混合チーム
の連中はだら／＼と何かやつてハ
た。ボールが来たらば蹴ればいい
、ダツシユなんてトンデモナイと
いうような感じだつた。ところが
聖光チームはいかにやと遠く見や
れば、練習なんでもうとつくに、
ワタ栄光の準決勝の怨み今日こそ
はらしてくれんとの意気込みが感ぜ
られた。試合前ほんの少しだけ留

を使つてコーチつきの練習をやつ
た。サイドモシューテングもあま
りさえず、おまけに悪いことには
ホロしたボールをノホホンと見送
つたり、のんびりとしか追かける
者しか見られなかった。風は少々
強く、手もいくらかかじかまなハ
でもなかつたが、そんなことはダ
ツシユでカバーできたはずである。
実にさびしいねエ。これが二回戦
風下に行くときつぞく現われた。
一回戦、戦は風上で一応はもちこ
たえたのだが、二回戦では風下で
あるということを計算にハれない
プレーが目立ち、横れてゐる聖光
チームに押しまくられた。が中三
のダツシユと中ニ抜特の長距離用
インスチャップキックを活用して、
前半は一応くいとめていたが、後
半ペナルティーラインの付近での

混戦からバツと飛出したサンクス
君追いつかる中三を振り切つて強
引に打つたシュートは練習不足の
戸田君の横をついて、ゴールへて
ん／＼と……無情の思い。

これに刺激されて混合チーム、フ
アイトを燃すか中盤のダツシユが
なくどうしてもハーフラインをこ
えない。そうこうするうちに二回
目は終つてしまふ。中三にはダツ
シユがない、サイドのごく基本の
パスが通らない等を痛切に感じた。
ここで中三の練習には全員来るこ
とがナイと聞いて、大い憤りを感
じた。土曜に練習しても、火曜ま
で何もしないでいるといいかげん
体がなまってしまふのに、めつた
に練習に來ないなんて、もつての
他だと思わずにはいられなかつた。
だいたひ中三はたるんでゐる。こ

の時はイレブンが全戦線をそろえ
ていたようだったが。一人がサボ
ル時他のノンバーは何をしている
のだ。サッカーは団体スポーツで
個人技だけでは十分でないのだ。
だからイレブンの内一人でもぬけ
たら十分な攻撃も守備もできない
のだ。又イレブンの内一人だけ下
手でも、一人だけずばぬけて巧く
でも優れたたないのだ。仮にずば
ぬけて巧いのが一人いても、三人
でマークされれば身動きかどれな
くなつてしまふ。チームはその一
人だけを頼りにしてゐるのでボイ
ントはぐんと減つてしまふ。サー
カーのイレブンでは皆が同じくら
い巧く、一人だけが無理すること
なく、一つにまとまつたチームワ
ークで攻めかつ守るのが理想的な
そうである、ものの本によれば。

昔のサッカーは、キックアンドラ
ッシユが主な戦法だつたそうだが、
今では通用しなくなつてしまつた
そうである。近代サッカーの急所
はシュートパスにあるとか、もの
の本によれば。だから中三のイレ
ブンのうち一だけが必ず練習に來
て、一人だけがうすくなつたので
はだめで、又一人だけいつもサボ
ツたりしてゐたのではチームは成
立たないのである。皆がいつも練
習に來て、皆が巧くなるわけは自
然中三は強くなつていくはずであ
る。今の中三のようには。さてこん
なことを考へてゐるうちに三回戦
が始つてゐた。運の悪いことにま
たしても風下の陣に構えたのだつ
た。三回戦が始まると風はいよく
強くなつて、普段なら栗々揺くは

ずのゴールキックも空中で止つてしまつたかの如く見る程だつた。風はのつて頭をこしてしまふボールのしまつてこまつてボン／＼タツタへ出してしまつた。これこそ聖光チームの意うつばで、彼等勢はにのつてぐん／＼押し始めて来た。ゴールキーパー戸田君コーナキック、ロングシュートからよく守つたが、ついにゴール前の混戦かの一点失つてしまつた。どうやら栄光の混戦から失点へと結びつくケースがここにも現われたらしい。もう少しゴール前のねばりを強くしたものである。この失点にかくりと来たのか混合チーム若いのには意外と奮わず、中盤のダツシユ全くなく、ただ蹴るだけであつた。誰だか知らないが、打つたロングシュート風はのつて戸田君

の頭をこし、一瞬ひやりとしたがバーにあつたつてはねかえつた。木ツとしたのもつかのま、聖光の誰だか知らない選手がノホンと見守るバツクを尻目にナイスダツシユで一点。無念。ハや当然だつたかもしれない。混合チーム一応はシヨックを受けるが、栄光でくたいたの練習の連中を思えばなんのその、せめて、一点でも返して土産にしようと思ひ込んだのだが、たまにハーフラインを起して攻め込んだだけで得点にならず、逆に勢はにのる聖光に押され、またしても混戦からため押しの一点を失つはめになつてしまつた。このままする／＼と押され、一回戦以来一点も得ることなく、三回戦が終つてしまつた。

だがこれはコンビもやつていな

ハ中二には始めての試合だつたので、まあいい線ハつてるといえないこともなかつた。今の中二は体には恵まれてゐるから、練習次第でうまくなれると思う。週二回の練習には必ず来るのはもちろんのこと、サッカーの合向に勉強するような気持ちで、機会あるごとに、一分一秒をおしんで練習してほしい。

ガンバレヨ。

中三、中々鼻息荒し、中二の方々よ中三は生意氣だと思わず、中三を敵にしない位強くなれ、ガンバレヨ(R・A)



四季



十三期 青戸邦嗣

春
グランドの

芝生の青を目にしみる

夏
グラシドや汗のしずくが

目にしみる

秋
グランドの芝の黄色が

目にしみる

冬
短パンの下からでてる

足蹠し

中三

無銭旅行記

概論

十三期 渡辺 浩

このあいだの県大会では、ヒツ
チ、ハイクして帰るのが大流行。
第一日にはジョージとメイコヒア
イカワが三ツ沢まで。それに刺
激されて二日目には九人が三輪車
で戸塚まで。そのあと戸田と青
戸は、タンク車の助手席で、吉田
とアイカワとジョージとメイコ豊
田市で出来あがつたばかりのトヨ
ペットに乗って横浜反町まで、ホ
ウとアオサンと新井はオランダ人
夫婦の外車で横浜駅に横づけ。

なかでケツサクなのは青戸君、
家は浦須なのになぜわざわざ横浜まで
行ったのかえって電車賃が余計
にかかったとさ。

三日目にはアイカワとメイコと
アライとボクが同じ車でアイカワ
とメイコとアライは反町駅に、ト
ダは浦島が丘にボクは家から三
のメートルの所にのりつけた。
三日とも乗って帰った図々しい
奴はアイカワとメイコ。電車な
人で、遅いし、すわれないし、そ
の上金まどとられる人だから馬鹿
らしくて乗れないって。

祥説

「藤沢⇄横浜往復八十円」

十三期 相川 亮 一

この向の県大会の三日間、藤沢
へ行く時は向題はないかさて帰り

道、例によつて例のごとく一同うのめたかのため車探し、普段はつきあひないダンプロカーも昨日の敵は今日の友とあり盛んに手を振るかさつぱりとまらぬいそでオ一日目は皆あきらめてそれではというので聖園の中を通つていくことにした。しかし最後まであきらめないのはメイコ、ジヨー、僕と、はう三人。よしこうなつたら意地でもというので、はりかけたところを又ひきかえしてきた。はいつていつた連中の一番最後はいた新井はどつちにするかうろうろしていたが大勢に逆えず歩くことを決たのしく皆のあとを追つた。

ここが彼の運命のわかれ目、残つた三人道に沿つて歩きながら自動車にくるたびに手をふることに数秒やかてトヨペットがとまつたがこ

れは単方向、すると「永鼻」のトナカ「な」人を天井のスピーカーから「がーがー」ならしたトヨペットがもう一台すぐとまりこれがなんとまあ、横浜まで行くといひので、二人の三人口で一等の旅を楽しんだ。

二日目三人の話しを聞いたものだからよしこんどこそはと皆気負ひたちまとまつているとまずいのでバウバウにひつて歩くうろうろからきたカタカタながら機人的スピードをだすオート三輪、まずは首尾よくとまり三人が乗りかけたので、前に歩いてはた奴らはも我も我もと棄つてくるうちに早やオート三輪は始動を始め動きだすジヨーは片足をひっかけたのみだったので短い足を最大限にのびして「どまれ」「ストップ」と叫びきこ

れぐ、又僕もまだ棄つてはたかつたが最早これまでと、飛びのくば吉田の上にとすん、そしてそのままたオート三輪はずつと先の方を歩いてはた連中を後にフルスピード蘇沢の父又忌まで棄つていつた。これに味をしめたか今度はその父又忌で戦闘開始、どがて止まつたのは大型タンクローリーこれには戸田と青が、どがてきたトヨペット、ライトバンにはジヨー、吉田、太田、それに僕、次なる外人「ランダム」の運転する高級外車にはワンナマン、新井、青さんが乗り込み一路東海道を東へへぼる、先行したガソリン車は後からトヨペットにみられてはるとも知のすワンマン道路へこちらはパイパスを、又オ三号車もワンマンへとそれぞれ大名旅行を続ける。

一方残されたメイコ、中村組も遅れてなるものかと小型トラックをつかまえたハベんな神風ぶりを突撃して我々の後を追う。さてバイパスを快よくすべるトヨペットこれかなんとまあ、飯ナンバー新しいことは新しかったが規則で運転手以外を乗せては行けないことになつてゐる。だから運君の「ほいお巡りだ隠れろ」の声にいつせいに長い胴をおつて息を殺す。ハベはやたしへんな車に乗ったもんだ。

三日目の日ソバ屋で反省会の後金か不足しているのを理由に再び藤沢の文マ点まで引きかえしたのは、新井、戸田、メイコ、ワンナマン、それにおなじみの僕、すでにたぞかれせまる藤沢市の文マ点ばかりな帰りを急ぐのかなかなか

とまらなはいそれでも努力のかいあつて、やつとトヨペットかとする。また真新しい東京行である夜のハイウェイはなかなか混雑し車もそう早くはいけなけれど優勝の喜びも手伝つて大分気が大きくなつていて、横浜へおりたら映画みに行こうなんていう奴さえいる。やかて最後の道中も終りとなりメイコ、新井、僕の三人は反町でおりましたかあとの二人は車が東京へいくのをいいことにして自分の家の付近まで乗つてはつた。まったくたいした度胸である。さてこんどの三日間を通じて全部車に乗つて帰つたのは、メイコと僕二日組がジョージワンナマン、戸田、新井といったところまた青戸などはわざわざ横浜まではつたため二十四位損をしたという。まったく御苦

勞な話しである。さて今回得た教訓はこれから生かされるだろうからここに書いておく。

一、決してとまる車の人で断る人はいない。

二、どんな車でも一応あつてみることに。

三、あまり大人教で試みないことに。

この三つ位である。もしあまり金をかけないでどこかへ行きたかつたらこの方法に限る。又これから藤沢通いをなさる方々どうか三日連続車に乗れるよう試合にがんばつてもらいたいし、又車をどしどしとめる度胸をつくつて試合に役立ててほしい。

新

人

筆



。オ一回戦対Y校

二月十日正に湘南グラウンド

栄光ち

2 1 0
3 1 1
1 Y校

本来ならば前の日曜にやつてハ
るはずなのに、Y校の遅刻で今日
にもちこされたY校戦。4時頃栄
光のキックオフで試合は始まる。
グラウンドは猛烈なホコリで時には
ボールも見えなくなつてしまふ始
末。始まつてまもなく、栄光パス

よく通つてゴール前につめより、
混戦のうちには、RW北村シュートを
放てば、これがころかりこんで先
取点をあげる。その後Y校も良く
攻めこんでくるが、決定力のなさ
から点は入れられぬ。しばらく
して栄光また攻めこみ、LH高野の
シュートが、キーパーの手もとを
抜けてきまり、2点目をあげる。
一進一退の状況がつづくが、敵の
コーナーキックが非常に多く、し
かも正確にあげるので、バックス

は苦しんだが、それでも点は入れ
られぬ。そして2-0のまま前
半を終了する。

後半も前半と同様一進一退であ
る。しかし10分ごろRW北村の中
離シュートがゴール左隅にきま
つて三点目、つづいてハーフから
のパスを受けたLW越智、敵バック
スをけちらして左隅に決めて四点
目を上げる。その後もLW越智混戦
の中から五点目を入れ、ゲームを
押す。これで勝つたと安心したか、
バックス乱れ、敵のパスが10-9と
うまく回り、ガフあきのゴール前
でCFにシュートをきめられる。一
点を失なつた所でタイムアップ。こ
うして新人戦の一回戦をものにし
た。さあ明日は録学だ。是非勝と
う！

藤原野川小島
佐伊星中伊堀北吉高越田
G.K F.B H.B F.W

。オ二回戦対鎌学

二月十一日(日) 於県営ローン

栄光 2		鎌学 1	
0	0	1	0
1	1	0	1
0	0	0	0

いよいよ鎌学だ。みんなハツに
なく引きしめる。天気はサツカー日
和。風は物すごく強い。まず前半
は風下に陣取って十二時に栄光の
キックオフ。始めのうちは栄光が
ク割ほど、球をキープして優勢。そ
して10分ごろLW越智パスを受け、
ドリブルでバツクをぬき、ゴール
前にせまり、混戦になるがうまい
具合に引っぱり出されたキーパー

をぬいて越智シュートを放てばゴ
ール・イン。貴重な先取点をあげ
た。その後学園はりきつて攻撃し
てくるが、キーパー佐藤の好守備
とバツクスの必死のカットで難を
のがれ、一進一退の状態になり一
一〇のまま前半終了。

後半、風上に陣取ったがかえつ
てやりずらくなつたか追さぬは
なし。そして15分ごろ敵フオー
ドに中央を突破され、ゴール右隅
に決められて同点にされてしまふ
。それから追さぬはなしでた
まに攻撃にでても学園の大きなキ
ックで返されてしまふ。そのま
ま後半も終了する。

延長栄光がせん押し出す。風下
に来た方が有利になるのだから皮
肉なものだ。この間LW越智の情し
ハシュート等も交えて栄光有利。

いよいよ延長後半になる。こう
かつたら先に点をを入れたものが勝
た。今年も栄光有利。両ウイング
を軸にどんな攻める。5分ごろ
LW越智ドリブル後センターリング
を上げ、それを受けたCF田島がク
リーンシュート、見事に決まつて
遂に決勝点をあげ。その後も栄光
押しRW北村の指しハシュートもあ
つたが点にならずタイム・アップ。
勝った、ついに勝った。みな優勝
でもしたみたいは大喜びだつた。

藤原野川小島 村川島野智
佐伊星中伊堀北吉高越田
G.K F.B H.B F.W

。オ三回対希望ヶ丘戦

二月十七日(土) 於県営クレイ

栄光		希望ヶ丘	
2	1	0	0
4	1	0	0

希望ヶ丘

筆者残念ながら風邪で学校を休み試合にも行けなかったのでスユアーその他による。

他の試合の関係からキックオフ三時半が大分遅れた。

前半すぐ相手はゴールに攻めてんで来たがバックス返えしフオワードを蹴がまわり一進一退になった。栄光しばしばつめよるが最後のきめ手が出ない。ようやく20分バックスからフオワードへ蹴がまわりCF田島受けドリブルでゴール前に迫り混戦となったところLW越智強引にきめて先取点をあげる。フオワードねばりの得点である。さらに25分CF田島がつつこんで一点。そのまま前半終了する。後半は相手に元気がなく完全に栄光のペースとなる。LW越智は高野のハイコンビでゴールにつめよ

るか越智がみなはずしてしまふ。15分ゴール前でCF田島よくつつこんで一点。20分R吉川左上方にまめ、25分にはフリーキックからL高野パス受けきりハに右すみにきめ計4点をたたてうづけに入れた。今日ムーチン風邪で出られなかったので代りにバレー部の石島氏にやつていただいた。どうも御苦労さま。

津沢勝対茅ヶ崎戦

二月十八日(日)

栄光	1	2
0	1	0
茅ヶ崎		

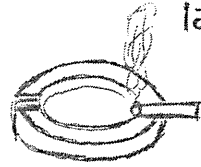
茅ヶ崎には一中の首藤、片中の久保田、2番等なつかしい顔ぶれが見られる。それはさておき栄光又も風下に陣じるが、始まってすぐLW越智ドリブル独走後クリン

シュートを決め先行する。しかしその後はひどいもの。蹴つた球はもどつてくる、ヘッドしようとするれば後へそらす、これみな強風の影響で、大分敵はキープをなされていた。そして13分にはLに左すみを、26分にはRに右すみを、山ぞ山距離を決められ逆転さる。後半風上に陣取つた栄光元氣を出し、越智高野のコンビでどんな攻め立てるが敵の規則的守備にはばまれ点に結びつかない。27分ベナルティを得てチャンスと思われだが、キーパー正面をついてだめ。タイムアップの笛。後半あんなに押してながら……。しかしみな顔は意外に明るかつた。

藤島 藤野坂東口島川島野智
佐石伊星宮伊樋小吉田高越
GK FB HB FW

とかくこの部でつきないものは

ハナツの種



運動会後夜祭にて

。その一

恒例の「コーリング」をやつてゐる時、会計の成宮君、日頃、K君が金を払わないのでこぼしていたが、二の日、彼は「はい」のには、「はい」と一声高く呼んでしまひだした。やはり、会計の、金に対する執念は恐ろしいものですネ。

。その二

これも同じく「コーリング」の時、

高一N君、夢中になつて「高IIIムジ」さんを指して、熱考数分、遂に彼は意気揚々として叫びましたが、あゝ無残、彼の口から出た言葉は何と「タヌキム」

。怪人の人間宣言

これも後夜祭の「コーリング」の時、高一怪人こと星野君は、皆から集中攻撃を受けたが少しも動せず、鮮やかに返答して「いたが、高三Gさんの「カイナヤン」をきつかけとして、カイ「ミスター怪」モンス

ター」「ミナヤン等幾多の名前を頂戴したが、高一N君、彼が部費50円を払わないので、いつも攻め立てていたが、ついに「部費50円」をやつてしまつた。ここに至つて怪人は、人間宣言をすることゝ余儀なくされ、すくくと立ち上り、堂々と宣言した。

曰く、*Don't mean, not mean*。

。縮果員のナゲキ

「おい、お前冬休みに何か原稿書いてきてくれよ。」

A「めだよ。忙がしいもんじ。」

「どうして。暮は？」

A「バイト。」

「じゃあ正月は？」

A「デイト。」

。愛好会

スポーツ大会中の練習日。指導や何やので高校の練習にきたの

かたつたの六人。陽気な丁君「愛好会みたいだ」と大喜こむ。(我々は翌日早大愛好会と対戦の予定)とこゝろが練習はきびしくグラウンド往復のインターバルを何回もやってみんなフーフー。今度はさっきの丁君「愛好会入って損しちゃった」と音を上げていました。

。ラッパと共に

先輩の〇さんは商売柄、音の良ハラッパをいつも携帯しております。(と言えはだれでも何の事かお分りでしょう)合宿にも持つてきて、何かと言うと吹きならしては皆を喜ばしておりました。これは山小屋にまで持つてきましたか、大晦日の晩には故障したのか、音は出ずにはおいはかりまきちらし皆かのこすき回わされたものです。ところかその〇さん翌日寝袋に

すつぽりくるまつて寝ている別の〇さんを見て「いつ蹴っとばすよ」ハッさんからやめよう。だなんて、そりや聞こえませぬ、〇さんヨ。

。中一練習風景

中一は純情で従順であるというのが足説のようですが、まあお聞き下さい。ある日の練習のこと。

二人でグラウンドを往復するパスをやつたのですか、一つの組が超スローモーションで向うから戻ってくるの、コーナは先輩面してどなったものです。「あーい、お前たち前に進んでんのか」するとそれに答えて言うには「運んでるからこうしてもどつて来たんでーす。」だつてさ。どうやら従来の足説は大幅に書き換える必要があるようです。

。読編集員のナゲキ

原稿をたのまいた者は大抵「うーん。……題教えてくれよ」とかなんとか煮えきらない返事をするものです。これは中ニ丁君にたのもうとした時の話。

「おい、丁」(こここまで言うや否や)「あつ、やだやだ、書くことないもんじ」

「そこを何とかたのむからよ」
「どうしてそんなにぼくだけいじめるの？」

こんな時の編集員の気持は実に複雑なものです。

。君、泊ってけよ。

新たに中ニの専任指導者になつた高野君、みんなから「中ニと親しめ親しめ」とけしかけられます。そんなある日、電車の中でそばに中

奇跡。昔から、珍らしい人が、その人にふさわしからぬ珍らしい事をすると「雨が降るぞ」とか「雪が降るぞ」とかいますか。

一月のある土曜、間もなく高三

藤溪馭_レて

九号のゴシツ
フに葉つて
ハるよ

大船をろく、ガチヤン

試合のあつた日の蔵沃駅、みな

○ 新人戦に拾う

「栄光イイゾ」

彼女「ジロリッ」(いと冷やか)

「ヤ校シヨホイゾーツレ」

彼女「シリシ」(更に冷やか)

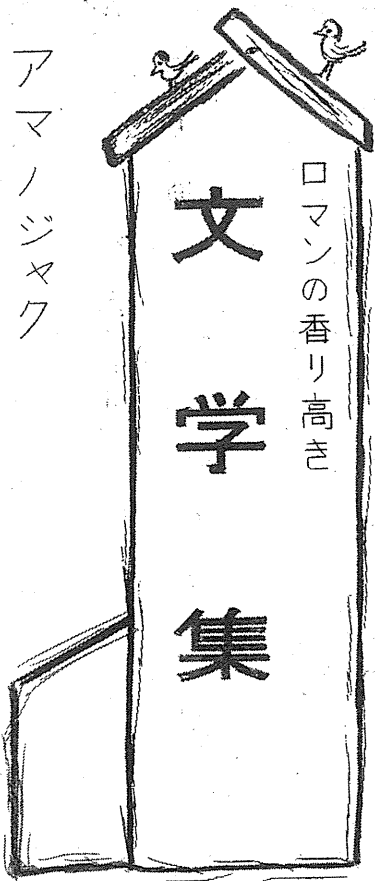
さすがに腎肝を冷した。ここで

「学校三入が出る」

「ハイイ校」又「ジロリ」……

Y校がシバレヨリ

向うから申三S君(心臓にもあり)です。ご引き上げてきます。うたつてにらむんだもん。又た、おれが言つた「あんな人でも一人いたらなあ」じいちゃん、今のままでからうそ幸福なデス。



アマノジヤク

十三期 渡 辺 浩

アマノジヤク ジヤク

アマノジヤク

ハツでもみんなとヨロコバナイ

ハツでもみんなとナシマナイ

アマノジヤク ジヤク

アマノジヤク

アマノジヤクは影坊主

あまのじやくつていうのはこれ

だよ。 そうある人は言つてま

す。

米 米 米

小学校の二年の時、かれのおか

あさんは先生に言われました。

「お宅のお子さんは、なんてい

うんでしようか、授業の時一番

前でいちいちヘリクツを言うん

です。 あんなに文句をつけれ

るやりにくくつて困るんです

。 ですから、ボソボソ

それを聞いた時、かれはちくしょ

うと思いましたが。反対するのは
勝手じゃないか。 文句をつけ
られるような不完全なことをい
うからいけないんだ。

それから「だんほ」と「まわり」と
「こすもす」と「ざんか」が順番に回
つてきて、かれはおおきくなりました。
そしてかれは叫びます。
「はやだよ、ぼくは反対だ。」 人
なかいといふたつて、ぼく
はあくまで反対だ。 だめだ、
だめだ、だめだ。

米 米 米

むかし、むかしあまのじやくは
うりからうまれ、うりて姫にハ
いなるをしました。 それ以来
彼は仁王様にふみつぶされて、
苦しんでいます。 でもその子孫
は今、自分だけはこう言うんだ
と、いつてかんがっています。そ

してみんなを困らせなやませて
います。

——たとえ我が身にたたりがあつ
と、さからうてみせるぞ——

(ハムレット一暮一場)

白いハナずまが胸を横切る。こ
の胸のうずき。やつぱりかれも
さびしい人でしょうか。

ボール

十二期 怪人 助

(ペンネーム)

放課後

きたない部屋の間

いや あちこちに

君はじつと休んでゐる

君は変人に

呆でしいたげられ

変人のおでこに

は、けれ

鋼鉄のバーに

ぶつけられ

それでも君は

黙つてゐる

君は強い

コンクリートにぶつかつても

歯を食ひしはつてゐる

君は早い

君は光のように

飛ぶ事ができる

君にも魂が

あつたんだね

君は変人への報復として

時をパンケしたりする

君が始めて

この世にうまれた時

——一体君はどう思つたの

君が始めて

野獸になつた時

君はどう思つたの

僕はそれを知りたハ

それを知ろうとしたハ

君の命は短い

ある人は言つた

人生はほかかないと

でも 君は

君の命はもっとほかかない

ああ 君よ

君はどろをつけられ

あかをつけられ

くさい油をつけられ

それでも君は

黙つてゐる

ああ 君よ

許したまえ

我輩は

君の爲に

君を愛するが爲に

君を抱き

君の頬に油を塗り
化粧しているのだ

ああ 君は

君は正直だ

君は落ち着いてゐる

君は勇敢だ

ああ 君はえらい

放課後の

部室の

あちこちに

ころがっている

遠くの方で

生徒の声がした
早くかえろうよ、

非直線系

十一期 田島 卓世

「序」

次に始まる文は、必ずしも私の
思想の全てではない。唯、私の思
想という弊から気の向くままに、
手をのばしている枝である事には
違ひない。木の形体が非直線であ
る以上、私の思想は非直線であり
、この文も非直線から導かれた系
の集りである。

「真理について」

真理は埋れた宝ではない。まし
て天上に輝く星でもない。
まことに真理は、ただ脳細胞中
で醗酵するものである。「神」と

共に――。

◇

真理は、幸福への道標ではない。
まして善でもなければ悪でもない。
まことに真理は、ただ「永遠」
に全てを超越せんとする「意思」で
ある。ありとあらゆる力を賭けて

◇

吾々の行動を支配するものは、
吾々自身をおいてある訳はない。
とは云え「永遠」に超えんとする
ものとは又、いつか吾々自身をも
超えるであろう。真理を従えて――

「誠実について」

誠実とは、ゆたかなる者の感傷
趣味である。ハムレットの誠実が
常に吾々の涙を誘うが如くである。
もっとも、あらゆる詠嘆は「従
って全ての感傷趣味は」少くも、
時間的・経済的余裕の上に成立つ

ものである。

☆

誠実とは、又、まづしき者の貴族趣味である。もっとも、生れながらの貴族には、どうして貴族を装ふ必要があろうか。

誠実とは、まづしき故の貴族趣味である。勿論、こころまづしき故の――。

☆

辛かるかな、こころまづしき者、
これば吾々は又、寧ろ、こころまづしきからぞらんことを憂うべきであるかも知れない。ましてや人侏儒の言葉の作者も指摘している通りへもし正直になるとすれば、吾々は、すなわち、なにがとも正直にならぬことを見出さねばならないのである。

故に、誠実とは、求めて得られ

ぬ教習である。

『正義について』

八百六十年正義の敵といふ名は砲弾の楯に投げかわされた。――芥川龍之介――

とは云え、公正義は武器ではない。寧ろ甲冑に近いものである。もつとも、いずれにしろ太平の具ではない。

☆

正義の存在理由は、世の中には如何に正当な勇気のない卑怯者が多いかを示すものである。

正義の存在価値は、世の中に於ては、又、如何にその正当な勇氣だけでは、不充分であるかを示すものである。

『時間について』

私がこの文を書いてゐる時も、君達がこの文を読む時も、時

ようしやなく過ぎ去つてゆく。

この流れに追いつけぬ我々は、

次第に隔離の交を深め遂には、時雨と永遠に別れねばならなくなる。一時雨は無論のこと今秒たりともおろそかには出来な。時計のセコンドさえ「価値……」と時を刻んでゐるのだから。

『皮肉について』

皮肉を浴びせることには冷酷な喜びがある。それは、相手を力と力の土俵から誘ひたして、それと惑づかれぬ楯にマナイタの上に棄せて、ひとかけらの知性と教養とでメッキした包丁をふるひ、己一人ひそかに快さを満喫するといったひややかな楽しみである。皮肉は又ある証拠であつても、力あるしるしはなり得ない。ところが悪は力であり、力は幸福を約束し

てゐるし又、伴つてもゐることを考へると、究極のところ、皮肉屋は二流人にすぎない。

『宿命について』

「これが俺に買わされた宿命という奴さ。などとはかり染めにも云うべきでない。人生とは、一度出発した以上は、もうどうにもならぬものではなく、己が意欲するならば中途でいくらでも良い方向に踏み入ることが出来るものである。己の身の回りだけなら、改革は常々可能だし、どんな環境にあつてもささやかな幸福を収めようと努め、進路は決定してゐるとしても、波風の動さによつて絶えず、舵は取り直さなければならぬ。」

『勝利について』

多くの戦いは於ける全ての勝利より、多くの敗戦に於ける唯一つ

の勝利の方がどれ程大きな記念となることか。故に、汝等勝利のすくなきを決して嘆くなかれ。けれどもなんと言つても、勝利の味は、幾度でも味いたいものだ。

『歴史について』

鉄血宰相ビスマルクは言う。「今日の問題は演説や多数決をもつてはとて解決されない。それは、唯、鉄と血を持つてのみ解決されるのである」と。ところでケネディは次の様に言うかもしれない。「今日の問題は鉄や血をもつてはとて解決されない。それは演説と多数決によつて解決されるのである」と。作者はこゝに、陰と陽の如き丁亥の表裏を感ぜざるを得ない。

『能力について』

三十センチの物差で一光年や、

一ムオンクストロームを測る事が不可能である様に、能力も、先生という物差に比べて膨大か極小の場合には測走出来ぬ事は、想像に難しくないであらう。諸君達は極小の方だと自認してゐれば苦勞は少ないであらう。

しかし、かすかな望みのない事もない。考え様によつては、膨大な能力の持主と言えぬ事もないであらうから。

『悲劇について』

山々

彼等の悲劇は、山がそこにある故に起つた。しかしこの悲劇も、彼らが山の美しさに魅せられなかつたら、起らなかつたかも知れない。勿論、神風登山家のソウナンは喜劇と想ふ事を自明の認識として――。

美を要する精神が神に始つたものであるなら、山の悲劇は、神に始まつたのかも知れない。聖書の神は、わたみの神かも知れない。

X X X X

“海”

彼等の悲劇が、水を求めなければならぬ程の暑さの故であるならば、夏がある限りこの悲劇は続くであらう。

唯、彼等か海で暑さをしのいでいる内は、今日程の余りに悲劇的な悲劇は存在しなかつた。知能がその領域を脱したときには、この悲劇的悲劇が起つたと新解釈を下すなら、優れた知能がその悲劇の始めである。知も又、神に始まる物である故に、海の悲劇も神から始まつたのだ。

X X X

“空”

すくぶる 頭も体もよい者がけが飛行機乗りになれる。神風將攻隊の悲劇は、彼等が皆健康優良であつた事に始まる。諸君の内の誰かに将来、空の悲劇が運命づけられてゐるのかも知れない。

X X X

“絶ふ”

“美しい悲劇”という言葉は、局外者の、美化精神による、勝手な判断に他ならない。

当事者にとつては、悲劇は常にみじめなものに過ぎない。彼等が自分の悲劇を美しいと感じた時、その劇は、わずかな量のにかりを含んだ喜劇に過ぎず、決して万人の認める悲劇とは同一ではない。

“拍手についで”

演奏の美しい余韻を味うべき静

寂を破るものが拍手であるならば、人の本性は何と残酷なのだろう。軍国主義者の熱狂的な演説、ボクシングのノックアウト、これ等全てに送られる拍手も同じ拍手なのだから、又拍手とは何と空虚なものだろう。

“送等についで”

“ふるい”にかけて残つたものを、送びだそうとする限り、送等の無意味さ加減は次第に増してゆくだろう。送等はそんな方法で行われてはいけない。例えば、ピンセットで土の中からタイヤを盛びだす様な手段が望ましい。たとえ、結果は同じであつても――。

“孤独についで”

人は社会的動物であると言つても、実は孤独である。何故なら、自分、自分自身であり、他の何

昔でもないから。

物質文明の発達した今日、孤独はいいものだと認めざるを得ない。けれども、又、孤独はいいものだと話し合う事の出来るだけか相手をもつことはひとつの喜びである。

『天才について』

才能ある人々は、説得し、天才はもつぱら刺激する。

★ ★ ★

才能ある人々は成就し、天才はもつぱら創造する。

★ ★ ★

結局、努力をしない天才よりも努力する才能ある人々の方が、よけいには仕事をするだろう。

『自由について』

古来、自由は余りにも高価の故に、我々貧乏人の手には入らな

った。ところで金持はどうか？ 彼等も又、しかり。真の自由は、天国に於いてのみ得られるものなのだから。

『徳について』

ある行為が、秘密に為された徳であるなら、それは美徳である。

しかし、その行為が名聞利益を求める徳であつたなら、それは勿論惡徳である。徳の唯一の報酬が、徳そのものである」というのが、真理である以上。

『文学について』

偉大な作家達が、絶賛に値するが如き文学を表して来た。だが、考えてみれば、これも盗作ではないか。神」という作家の、人生という小説の。もつとも、小説であるか戯曲であるかは私にも判断出来ぬか、ともかく膨大な数の人間

によつて痕じられてゐる。この意味では、君壁も一人前の俳優なのだ。

『退屈について』

作者が退屈を感じてゐる文章に、読者が退屈しない事はあるまい。作者は常に次の事を念頭に置くべきである。「作者が筆を持つて、アクビをした時、既に読者は居眠りをしてゐる」。

『終りについて』

卒業式でさえ、一抹のさびしさを感ず。諸君はここに幻滅と苦痛からの解放感のみを伴つた「終り」を見るであらう。

The end.



成績

度・中 学 ・ 高 校

◆ 高 等 学 校 の 部 ◆

日時	会 場	相手校	種 類	得 失 点	勝 敗	勝 率
2. 1	相 手 校	(塾)湘南高校	練習試合	4 - 0	○	1.000
2.12	藤沢泉宮クレ	法 政 二 高	香川杯争奪新人戦2回	1 - 0	○	1.000
2.19	" "	県立鎌倉高校	" 準決勝	3 - 1	○	1.000
2.25	" "	日大藤沢高校	" 準 "	3 - 2	○	1.000
2.26	" ローン	横浜商業高校	" 決 勝	4 - 0	○	1.000
4.15	栄 光 グ	鎌 倉 学 園	練習試合	2 - 4	●	.833
4.30	相 手 校	(塾)鎌倉高校	"	3 - 0	○	.857
5.14	県 鎌 グ	(塾)小田原高校	関東大会県予戦2回戦	3 - 4	●	.750
7.16	栄 光 グ	横須賀学院	三浦地区高校総合体育大会一回戦	7 - 0	○	.778
"	"	逗子高校	" 決 勝	8 - 1	○	.800
8.18	湘 南 グ	"	国体予選一回戦	8 - 1	○	.818
8.19	"	多摩高校	" 二 "	9 - 0	○	.833
8.20	泉宮ローン	鎌 倉 学 園	" 準決勝	4 - 2	○	.846
8.22	" "	湘 南 高 校	" 準決勝	0 - 6	●	.786
9.30	相 手 校	(塾)翠嵐高校	練習試合	5 - 1	○	.800
11. 5	泉宮クレ	川 崎 高 校	全国大会予選2回戦	5 - 1	○	.813
11.11	" ローン	(塾)鎌倉高校	全国大会予選準々決勝	3 - 3	●	.765
12.22	" クレー	早大愛好会	練習試合	0 - 1	●	.722
計			13勝5敗	72-27		.722

総

合

三 十 六 年

◆ 中 学 校 の 部 ◆

月日	会 場	相手校	種 類	得 失	勝敗	勝率
2.18	栄 光 グ	須 賀 学	練習試合	8-0	○	1.000
4.29	相 手 校	六 角 橋	"	3-1	○	1.000
5.4	"	聖 光	"	8-2	○	1.000
5.20	栄 光 グ	藤 沢 一 中	"	4-2	○	1.000
6.17	金 沢 中	岡 村 中	県大会1回戦	7-0	○	1.000
6.24	浅 野 中	松 本 中	" 2 "	5-0	○	1.000
6.25	保 土 ヱ 谷	真 鶴 中	" 3 "	3-1	○	1.000
7.15	"	藤 沢 一 中	" 決勝	0-1	●	0.875
9.23	栄 光 グ	金 沢 中	練習試合	11-0	○	0.889
9.30	相 手 校	藤 田 中	"	10-0	○	0.900
10.21	"	藤 沢 一 中	"	5-1	○	0.909
12.24	県庁クレー	白 山 中	県大会一回戦	7-0	○	0.917
12.25	" ローン	聖 光 中	" 二 "	3-0	○	0.923
12.26	"	聖 光	" 三 "	2-1	①	0.929
"	"	六 角 橋	" 決勝	4-1	○	0.933
1.20	相 手 校	聖 光	練習試合	1-4	●	0.875

通算

14勝 2敗

0.875

夏の大会 県下二位

冬の大会 優 勝

この一年の回想

十一期主将 田島卓也

長い長い一年であつた様でもあり、光陰矢の如き一年であつた様でもある。毎年――振り返り言ひ古された感慨ではあるが、今となつてみるとこの様な述懐以外の何者もない一年であつたのである。述懐や感慨が趣を同じくしても、時は流れてゐる限り、その年々の出来事は内容を異にしてゐるだろう。いれんや各人の出来事に対する感じ方等はあくまでも主観的なものなるが故に、同事件に接し

ても違つた受け取り方が生ずるのである。そこで毎年行なわれてゐる主将の回顧なるものを書く事にした。勿論、私個人の主観と感傷か入るのは避ける事が出来ないので、お許し願ひたい。

。新人戦優勝。

寒い時だつた。風邪の大流行で高一是確か三人位だつた。法政二高・果嶺、日大藤沢と戦つて決勝へ来る頃には、試合にも少し慣れた様であつた。しかし実際のところ

ろ頑張つてやろうという闘志より先に、失敗の少いのを願う気持ちが起つたというのが事実であつた。

勝利の味でさえ空虚なものだつた。勝つたといふ感激より、敗れたひかつたといふ豆蔻感の方が心の底に於いて大きな部分を占めていた。自分達だけでいゝ試合の後ふと脳裏をかすめた言葉である。

× × ×

関東大会予選二回戦敗退
試合終了のホイッスルが鳴った

時、自分のポジションにボーと立ちすくみ、味方のゴールをうつろな気持ちでながめた様な記憶が残っている。初めの敗戦が関東大会予選なんて、ついてないななど、話し合ったものだが、今になると余りに貴重な敗戦であった事が分つていたたまれなくなる様だ。

X X X

“創立記念祭展示会”

日本蹴球協会に協賛をたのみ、越後君と共にお糸の水までとりに行った。駅を降りた後お糸の川界隈の散歩をし(実は、目的の岸体育館がみつからなかった)。駅より二三分の所に目的の地をみつけて入ってゆくと、皿畳半程の狭い部屋を見つけた。これが日本蹴球協会なるものであった。竹腰、高橋等協会の幹部はいるがなんとも貧弱な

ので、日本に於けるサッカーの現実を知らされたかつこうになった。各国のベナントと全日本のユニフォームを借りて意気揚々と帰つて来て会場にかざりつけ、その日は泊り込みで番をした。夜中の二時頃、葉山か弁当(にぎりめし)持参で陣中見舞に來たのは後世までの語り草になるだろう。(ついでながら夜は、自宅へ葉山より自転車でもやってきて校舎の窓から入って来た。)

X X X

“合宿”

“暑い” “ぬむい” “疲れた”

“まずい”

X X X

“放射能雨”

インター杯の前、放射能雨で練習中止にわたった。原水爆の実験等

なくなつた頃のサッカー部員がこれを読んでも不思議に思うに違ひないがそれもいいだろう。昭和三十五年の一出來事として。

“インター杯”

敗戦というものがこんなにつのいものなとは知らなかった。又一人の重愛性の再認識もこの時である。北村が捻挫で倒れ、寒さの為に続々とつる者が出るに及んで、次第に遠ざかつてゆく勝利をあせりを感じながら追つて走つたが駄目であつた。抽送のとき、相手は“勝つた”とさげんだ。僕は自分の手の中の紙をひろげてゆつくり読み返した。敗。目の前に大きな活字となつて迫つて來そうだった。その場に坐り込みたい衝動にかられながらも、皆の下に走つた。やみの中で皆の姿を見ながら

汗をふく真似をしてそつと涙をぬぐった。

“ 中学県大会優勝 ”

夏の大会では惜しくも二位に甘んじた中学は、張切つて冬の大会に臨んだ。一つ ― 勝つてゆく彼等には、自信と実力があつた。そして小島というよき指導者が。

漸次のみをみて来た僕は、中学はよく知らない。しかし、僕は彼らに誇りを感じている。彼等が為し得なかつた中学県大会の優勝と彼等の団結とにだ。頑張つて、全国大会で活躍出来る程の強いチームになつてくれ、又学校をリードする立派な栄光生になつてくれ

X X X

私はここで筆を置くが、この一年の出来事の全てがここに述べられてはいない。部室の大掃除をしな

り、部員が骨折した事等は、右の系列中に入れて大きくとり扱うべき事であつたかも知れない。

しかしこれらは、各人の懐しい想い出として脳裏に残しておく方がよいだろう。君達のイメージをこして文にしては悪ハから。想い出は大切にしまえ。どんな微少な事でさえも青春の一部分なのだから。最後に、現役を去るに當つて君達に僕の好きな言葉をあげておく。

“ 吾人の最大の光栄は、一度も倒れないことではなく、倒れる毎に起きるところにある ”

ゴールドスミス

終

役員選挙

昭和三十七年度役員選挙は一月十三日(主)放課後K3Cの教室で中うから高三まで四十八人の参加へ不在投票がそのうち九人のもと行なわれた。結果は左の通り。

主 将

◎伊東 39

星野

佐藤 6

その他 1

伊藤 1

副主将

◎佐藤 40

横川

越智 3

星野

高野 2

(伊東)

会 計

◎越智 35

星野

高野 5

その他 3

樋口 3

編集後記

○せつせと原稿を揃めた結果97ページになつたのでトックイになつて光有社に印刷をたのみに行つたのだが、値段が二万円にもなると聞いて一瞬がくぜんとなつた。とにかく頁数を減らさねばならん。そこで思ひきつて僕の書いた作文記事等殆んどカットしたところどつにか83頁ほどになつた。これでも二万六千円ほどになる。そこでお願い、君たちの乏しい小づかいのしほり取るのは心苦しいのですかいつもよりちよつぱり値段を上げさせて下い。お願いします。

○今号の新企画は相川君提案になる脩道高校の紹介、やはり脩道と

もなると相当読みごたえのあつた事と思われず。

○受験をひかえた高三の方々、ハそかしいのに沢山の原稿どうもありがとうございました。

○一号からのリバイバルも考えたが、今度のような状況では一寸無理であつた。ネタの少ない時のためにとつておこうと思う。

○とにかく金に悩まされた今号先立つものの責重さが切実に感じられた次第であります。本当に君たちの協力援助をお願いします。



DASH

昭和三十七年三月十五日印刷
昭和三十七年三月二十五日発行
発行所

栄光学園蹴球部

編集員

中川 謙

相川 亮一

渡辺 浩

顧問 向川 威

吉川 威

印刷所

横浜市金沢区六浦町四八四三

光有社

電話 (70) 八〇八〇番

栄光学園 サッカー部

定価

¥.80